

同窓会報

No.22



豊橋技術科学大学



豊橋駅前サテライト・オフィス (愛称: テクノス-U)



2005

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 西 永 頌

本学は、本年4月より法人化し、国立大学法人豊橋技術科学大学となりました。実際に法人化されて見ますと思っても見なかったことがいろいろ出てきました。法人化の光と影の部分です。勿論、どんな改革にもプラス面とマイナス面があります。プラス面を生かし全体としてプラスになるよう変革するのが大学のつとめと考えます。

国立大学の法人化が公式に議論されたのは平成8年に始まった政府の行政改革会議です。当時は行政改革という視点で国立大学の独立行政法人化が議論されました。しかし、これには当時の文部省、国立大学の両方から強い反対がありました。理由は、教育・研究に行政改革、すなわち行政の効率化の概念は当てはまらないという考え方です。例えば、小中学校の少人数教育は、効率化の点から見れば逆行します。しかし、そのほうが教育に良いなら効率のみ追うことはかえってマイナスです。研究にも同様な面があり、独創的研究は研究者の自発的な発想により生まれますから効率化という概念とマッチしません。その後、各方面の議論を踏まえ、国立大学の法人化は“行政改革”という立場で行うべきではなく、“大学改革”という視点で行うべきということになりました。

その結果、国立大学は独立行政法人ではなく国立大学法人として根拠法も国立大学法人法という法律を新たにつくり、それによることとなりました。法人化は様々な面で大学の自己改革をうながす優れた面を持っています。例えば、今までは、学科の改組や、センター類の新設は文部省（現文部科学省）の許可を得ないと出来ませんでした。しかし、法人化後は大学全体の学生定員や予算を変えなければかなり自由に出来ることになりました。また、法人化後は、中期目標に沿って一期6年

の中期計画を立て、改革を進める仕組みになっています。従来は、改革と言ってもかなり場当たり的でしたが、今後は長期的計画と見通しのもと改革を進めることとなります。また、国立大学法人職員の身分も非公務員になりましたので、企業などとの連携や兼業もし易くなりました。

以上の利点を生かし、本学に新しいリサーチセンターをいくつか作る計画です。その第一は、未来ビークルリサーチセンターです。このセンターは三河湾周辺の市町村を母体とし国際自動車特区が認められましたので、その活動の一つの中心とするべく本学に設立を構想しているものです。このセンターでは未来の自動車をめざし、燃料電池、軽量化、リサイクル等の研究を行います。現在、文科省を経由して財務省に予算請求が行っているところです。このように、法人化の光の部分も沢山あり、本学は今後この点を生かし、改革を進めて行かねばなりません。

一方、大学にとって法人化の“影”の部分も出てきました。それは、法人化の“行政改革”としての面です。本来、大学改革であって、行政改革では無いとして始まった法人化ですが、走り出すといつの間にか行政改革の視点が現れてきます。具体的には、効率化係数というものが導入され、本学への国からの交付金が約4000万円づつ毎年減らされることになりました。来年度で見れば、本学の全予算に対しそれほど大きな額とはいえませんが、5年後には現交付金から約2億円の減額となり、かなり痛い数字です。これは一つの例で、このようなマイナス要因がいくつかあります。しかし与えられた自由度を生かし、大学の活力を上げ、法人化時代に向け新たな歩みをする決意です。同窓生の皆さんのサポートをお願いする次第です。

第一工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 関東 康祐

エネルギー工学系および機械システム工学系の卒業・修了生の皆様、お元気にお過ごしのことと拝察いたします。まずは、恒例の通り、系内の近況報告をさせていただきます。

今年度は教職員の異動が7件ございました。エネルギー変換工学講座で教授をしておられた小沼義昭先生が平成16年3月31日をもって退官されました。機器設計学講座で助教授をしておられた埴克己先生が平成16年4月1日より鈴鹿工業高等専門学校機械工学科へ教授として栄転されました。同じく機器設計学講座の新任教授として河村庄造先生が平成16年4月1日付けで神戸大学工学部機械工学科より赴任されました。また、エネルギー変換工学講座で助教授をしておられた野田進先生が平成16年4月1日付けで教授に昇任されました。そして、機器設計学講座で助手をしておられた感本広文先生が平成16年7月1日付けで講師に昇任されました。同じく平成16年7月1日付けで機器設計学講座の助手としてホサイン・MD・ザヒド先生が赴任されました。系事務室の前田奈津子さんが平成16年10月1日付けで8系事務室に移られ、後任に半田恵子さんが着任されました。10月1日現在の教職員一覧を別表に示します。なお、本年度の系長および系長補佐は、引き続き高木先生、上村先生が務めておられます。

今年度の学内近況で最も大きなものは、やはり法人化です。国立大学から国立大学法人へととなりました。民間企業と同じ法律で運用されるため、学内規則がいろいろと改正されました。公務員の身分から離れ、民間企業の厳しさを日々感じているところです。ただ、今年度は始まったばかりで体制が十分に整っている訳ではありません。今後数年はいろいろと変化を余儀なくされると観念しております。

就職状況は、昨年度の厳しさと同程度ですが、幾分暖かみを増した感があります。就職担当の先生も淡々とお仕事をこなされていますが、ご苦労・ご心労は例年と変わりはないと拝察いたします。言葉を換えれば厳しさも底を打ったということですので、良い方向に考えたいと思います。

来年度以降も、本学がどのような方向に変革していくのか不透明な部分がありますが、同窓生の方々の暖かいご支援をお願いしたいと思います。早速ですが、

一系がJABBEを受ける際に同窓生へのアンケート等を行うことを計画しております。その際には、ぜひご協力をお願いします。末筆ではございますが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、近況報告を終わりといたします。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史、日比 昭、北村健三

助教授：中川勝文、柳田秀記、鈴木孝司

助手：伊藤高啓、山本高久

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：蒔田秀治、高木章二(系長)、野田 進

助教授：鈴木新一

講師：内山直樹

助手：関下信正、佐野滋則

[第三講座：機器設計学講座]

教授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター)、
上村正雄、河村庄造

助教授：関東康祐

講師：竹市嘉紀、感本広文

助手：ホサイン・MD・ザヒド(技開センター)

教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増学、神谷昌宏

[事 務] 半田恵子、野亦真理子

平成 15 年度就職先一覧

修 士	
GH クラフト	JFE エンジニアリング
NOK グループ	NTN
SMC	TCM
YEC	アイシン AI
アイシン AW	アルプス電機
王子製紙	カルソニックカンセイ
川崎プレジジョンマシナリー	川崎岐阜エンジニアリング
川本製作所	光洋精工
神戸製鋼所	島津製作所
ショーワ	仙台ニコン
大日本スクリーン製造	東陶機器
東洋キャリア	トキコ
トヨタマックス	豊田合成
トヨタ自動車	中菱エンジニアリング
日揮	日産ディーゼル
日本ノズル精機	日本山村硝子
林テレンプ	富士ユニバンス
富士機械製造	富士通サポートアンドサービス
富士通テン	フタバ産業
船井電機	本田技研
村田機械	モリタ
矢崎総業	

学 部	
愛三工業	アイシン化工
太陽精機	ダッド
日産テクノ	日本トレクス
三菱自動車	武蔵精密
村上開明堂	モリック

退官教官より

小沼 義明

私は本年3月に退官いたしました。豊橋技術科学大学の定年は65才ですから、チョッと計算が合わないのではないかと思われる方がおられるかもしれませんが、私は近年体調を崩し、講義や研究に支障をきたす状態が続いておりました。そこで皆様にご迷惑をおかけすることは重々承知していましたが、思い切って63才を持って退官する決心をいたしました。短パンでラケットを持って大学キャンパスをウロウロしているところをよく見かけられた方々からは“お前が体を悪くして定年前に退職するなんて考えられん”と言われますが、“体だけには自信があったはずなのに”と自分でも意外に思っています。私は学生のころからスポーツを好み、運動十分の生活を送ってまいりましたが、このような私がここ数年忙しく、ほとんど体を動かすことがなかったのが、体調に不調をきたす最大原因だったようです。“しっかり運動しているから大丈夫”と考えていましたが、運動も続けている間は健康にいいのですが、やめてしまっただけではかえって害になるような場合もあるように思われます。

さて、今年はまれに見る男性的な梅雨で、豪雨とともに猛暑がやってまいりました。私の研究室（燃焼工学研究室）では、7月末に卒業研究及び修士研究の中間発表を済ませて、8月の第1土曜から3日間研究室旅行に行くのが慣例になっていました。私は豊橋技術科学大学新設と同時に赴任してきましたので、今年で26年になりますが、この小旅行は最初の年から途切れることなく続いています。当然今年も研究室旅行をすることはできないのですが、去年私の研究室に在籍した学生が中心になり、OBにも参加を願って、今年も小旅行を企画してくれました。

行く先は八方尾根の隣の五竜です。この旅行は最初のうちは伊豆、若狭、伊勢などの海水浴場へ出かけることが多かったのですが、10年程前から五竜にある家庭的なペンション“びおれっと”にでかけるようになりました。五竜はよいスキー場で、学生がスキー宿として利用したのがそもそもの始まりのようです。近くに美しい湖があり、そこで魚釣り、ボート、カヌーなどができ、またテニスコートやゴルフショートコースなども設備されており、夏に行っても退屈する事はありません。研究室旅行の学生の間では特にゴルフが人気の中心になっています。コースはアップダウンの激しい丘に作られており、整備は悪く、まともなゲームができるような状態ではないのですが、誰に気兼ねをする必要もなく、初めてゴルフなるものをやる人にとっては好都合であり、これを機会に会社に就職した後でゴルフを始めた学生も多いようです。

このように運動を中心にした小旅行ですので、体調不良の私が参加するのはどうかと思われましたが、最後の機会になるかもしれないと考え、毎日が休日の身でもあることから、家内も連れて参加することにしま

した。1日目の午後はテニスの予定でしたが、あいにくの雨で、ほとんどできませんでした。2日目は朝からゴルフで、天気もよく、楽しくプレーする事ができました。皆が気を使ってくれたのか私が優勝ということになり、私にとっては大変愉快的なコンペ(?)になりました。今回はOBも7人参加してくれ、会社での活躍の状況など楽しい話題に話が弾みました。大学を巣立った学生に時たま出会い、その立派な成長振りに驚かされることは大学教官の喜びの一つですが、このような機会を今後も大切にしたいものだと思います。

先にも書きましたように、健康には自信があったのですが、今回改めて知ったことは、ほかの人は自分よりはるかに健康に注意しており、自分は情報不足の状態にあったことです。65才で定年退職したら晴れて自由に生活を楽しんでやろうと考えていましたが、このような状態ではたのしみどころではありません。そこで体力を回復するために、ウォーキングその他いろいろな運動をしています。今年の猛暑で運動も大変です。ウォーキングは犬の散歩もかねていますが、12才のハスキーで犬の方も年を取っているため、この猛暑で散歩の後半は犬の方がばてる始末です。しばらくは一匹と一人、日陰を拾って散歩する事になりそうです。体調は徐々にではありますが回復しており、もう半年もすれば体力も相当についてくるのではないかと楽しみにしています。

日本の経済もやっとな薄日がさしてきたようです。とはいっても、それを担う皆さんは大変だろうと思います。健康でご活躍されんことをお祈りいたします。



ペンション“びおれっと”にて

第1工学系同窓会H15年度収支報告

収 入	
平成14年度からの繰越金	3,213,760円
終身会費(H13年度、H14年度入会者計102名分)	1,020,000円
利 息	14円
計	4,233,774円
支 出	
会報印刷費	43,420円
会報発送関連費	225,914円
封筒(2000部)作成代	36,120円
アルバイト代	32,000円
支出小計	337,454円
H16年度への繰越金	3,896,320円
計	4,233,774円

研究室だより

伝熱工学研究室

機械システム工学専攻 1年 利田 裕 司

修了生、卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。

さて、本研究室の近況についてご報告します。現在、北村健三教授の下、修士2年生2名、修士1年生4名、学部4年生4名、計10名で構成されております。各人それぞれの個性を十分に発揮しており、みんな仲良く、多くの話が飛び交う研究室です。次に、そんな私達が現在取り組んでいる研究テーマを大別して紹介いたします。

- (1) 自然対流に関する研究
- (2) 共存対流に関する研究
- (3) 磁性流体に関する研究

(1) に関しては複数熱源間の干渉を中心に伝熱実験、流れの可視化、熱流体解析ソフトを用いた数値実験を行っています。また今年度よりLDVを導入し、流速の観点から熱伝達にアプローチを試みます。(2) に関しては本年度、新たに風洞を作成し研究を行っています。(3) に関しましては昨年度より始まった研究テーマであり、新たな熱輸送媒体としての可能性を模索しています。このような研究テーマにおいて研究室一同、対流伝熱について好奇心を持ち精力的に取り組んでいま

す。

研究室の行事では新入生歓迎会から修了生、卒業生の追い出し会まで、1年を通じて多くの宴会があり、日ごろの疲れを癒し、親睦を深めています。また夏休みには、2泊3日で研究室旅行にでかけ、英気を養っています。

修了生、卒業生の皆様におかれましては、豊橋へお越しの際はぜひ本研究室へお立ち寄り頂きまして、激励、ご助言等いただけましたら光栄です。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍、ご発展、心身のご健康を心よりお祈り申し上げます。



蒔田研究室の近況

機械システム工学専攻 高 佐 重 夫

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場でご活躍のことと存じます。現在、本研究室には蒔田秀治教授と関下信正助手の下に、修士9名、学部5名、研究生1名、計15名の学生が在籍しており、少々大所帯ですが、日々皆で協力しながら研究に励んでおります。夏季休業中には高専からの実習生を6名受け入れました。10日間の実習では物体表面の静圧計測による抗力係数の測定と可視化実験を行いました。多くの貴重な経験をしてもらえたと思います。

現在、本研究室では、主として以下の研究テーマに

取り組んでおります。

- (1) 大規模乱流場の実験的シミュレーション
- (2) 境界層遷移の解明と制御
- (3) 温度成層中の内部重力波の発達・崩壊過程の解明
- (4) 二次元噴流の遷移過程の解明
- (5) 球後流中の渦構造の解明

(1) では、等方性・異方性乱流場を用いた乱流統計理論の検証や、測定胴壁面に発達する境界層の制御という風洞実験の新たな可能性を見出す研究に取り組んでおります。また、風洞中に設置した細いパイプから放出される熱風の拡散に関する実験を立ち上げました。

(2)では、これまでに引き続き、乱流斑点や大規模馬蹄形渦を干渉させ平板境界層の乱流遷移に関する研究に取り組んでおります。(3)では、多チャンネルプローブによる鉛直方向同時計測や、流れ方向に並んだプローブによる内部重力波の位相速度の計測などを用いて内部重力波の解明に迫っています。現在は可視化実験に向けて準備中です。(4)では、バイモーダル励起と、噴流口に微小突起を設置することによって渦構造を固定することに成功しました。今後は、固定された渦構造を熱線流速計を用いて計測することを予定しております。(5)では、Re数に対する渦構造の依存性を調べるために、より細かくRe数を変えて可視化実験と計測しております。なお、研究の詳細や研究室の近況につきましては研究室のHP (<http://wind.mech.tut.ac.jp/>) に

随時掲載しておりますので、合わせてご覧下さい。

最後になりましたが、皆様の今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



新城市桜淵公園にて

機械ダイナミクス講座

機械システム工学専攻 修士1年 松田 浩 孝

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場において、大いにご活躍なされていることと存じます。

本研究室は、本年度より着任されました河村庄造教授、そして感本広文講師と今年の7月に着任されましたザヒード助手のご指導のもと、今年の4月から新設された研究室で、博士2年生1名、修士2年生3名、修士1年生4名、学部4年生4名の計12名で構成されています。

現在の研究は、「球殻の動的座屈解析」「ポリエステル網糸の強度解析」「SUJ2等価二球の衝突」「誘導加熱を用いたリサイクルの研究」「横風を受ける車輛の三次元異常運動の解析」に加え、新たに以下のテーマに取り組んでいます。

(1) 人工物の逆問題に関する研究

(2) 人工物の順問題に関する研究

(3) 身体にかかわるバイオメカニズムに関する研究

(1)については、「動作中の機械に作用する外力の同定」・「機械の境界条件の同定」の2テーマについて取り組んでいます。

(2)については、「非線形特性を有する構造物の応答解析手法の開発」・「セルラー・オートマトンによる非線形現象の再現」・「スポーツ用具と人間の相互作用の解析」について取り組んでいます。

(3)については、「歩行動作のカオス解析」について取り組んでいます。この研究では、歩行時の膝関節に注目したカオス解析を行い、疾患者の回復に役立つ

という事を目的としており、今後トレッドミルを用いた歩行実験を予定しています。

これらの研究は、本年度より取り組みはじめた研究のため、定期的にミーティングを行い、お互いの理解を深め合いながら日々勉強をしています。

研究室の行事では、新入生歓迎会でバーベキュー、研究室旅行で長野への観光、その他祝い事や打ち上げなどで飲み会を催すなど、行事を計画して楽しく過ごしております。

卒業生、修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は、ぜひ本研究室へお立ち寄りください。皆様のお話や、ご助言等をいただけましたら光栄です。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。



第二工学系

豊友会

—for you—

(生産システム工学系同窓会会報)

系長あいさつ

生産システム工学系 系長 川上 正博

卒業生の皆さんお元気ですか。昭和53年に第一期生の皆さんをお迎えて、もう26年になります。大学の中ではそろそろ30周年記念事業の準備にかかろうとしています。この間、大学は課程が増えたり、博士課程が出来たりと変わりましたが、一番大きな変化は今年の4月に起こった独立法人化でしょう。名前が「国立豊橋技術科学大学」から「国立大学法人豊橋技術科学大学」になり、我々はもはや公務員ではなく団体職員であり、教官は教員となりました。予算的には、毎年運営交付金という形で文部科学省から来るものがメインですが、これを獲得するためには6年間の中期目標・中期計画を策定し、それに基づいて毎年予算申請をしなければなりません。さらにその額は毎年1%（約5千万円）ずつ削減されることとなります。ですから、これまで以上に、科学研究費補助金、NEDOの提案公募型研究資金、企業との共同研究、受託研究など外部資金を積極的に獲得しないと研究が出来なくなってきました。さらに、研究成果の積極的な還元を目指した知的財産創出が求められています。それを支援するために株式会社豊橋キャンパスイノベー



ションも設立されました。その設立に当たっては卒業生の皆さんからも多額のご出資をいただき、感謝しているところです。このように大学にも競争原理が厳しく取り込まれて来ていますが、生産システム工学系の先生方は皆さんがんばって学内・外で活躍されています。

一方、高専の状況もだいぶ変わりました。高専からの編入学者が優秀であることが多くの旧国立大学の認めることとなり、各大学で編入学の枠が大幅に広げられました。さらに、商船高専を除く旧国立高専に専攻科が出来ました。というわけで3年次編入学志願者が減り、推薦選抜の応募者はほぼ全入の様相を呈しております。これからは専攻科卒業生を大学院に積極的に受け入れるよう方向転換を図っています。

前号で堀内先生がJABEE試行審査を受けた結果を報告されていましたが、本年度はいよいよ本審査を申請しました。これにより、教育の質が向上し、卒業生の素養・能力が保証されることとなります。申請のための資料作成は大変ですが、堀内先生の陣頭指揮の下、全教員ががんばっています。

最近多少の景気回復が見られますが、製造業もなかなか厳しい状況にあります。どうか健康には気を付けて、益々のご活躍を祈念しております。

学内近況報告

医療・福祉材料工学研究室 戸田 裕之

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。各職場で御活躍のことと思います。現在、系長を務められている川上先生を中心に、教職員一同、研究、教育に励んでおります。系としては、入学、就職状況も例年以上に良好のようです。これらはひとえに皆様の御活躍があつてのことと思います。



2系では本年度、JABEE（ご存じない方も多いかもしれませんが、専門教育の認定です。）を受審する予定で、職員一同大忙しです。

さて、教職員の移動などにつきまして簡単に御報告いたします。まず、平成16年4月より、材料保証学研究室と医療・福祉工学研究室が一緒になり、医療・福祉材料工学研究室となっています。

職員の異動では、大垣智巳産学官連携研究員が平成

15年6月に高エネルギー加速器機構から旧材料保証学研究室に赴任されました。また、平成15年9月には、塑性加工研究室の原田泰典助手が、姫路工業大学（現兵庫県立大学）大学院工学研究科に助教授として転出されました。平成15年12月には、以前も在籍されたGUNAWARMAN助手が、旧医療・福祉工学研究室に赴任されました。同じ12月には、材料保証学研究室の王磊助教授が中国に帰国されました。平成16年に入り、4月1日付けでシステム制御研究室の矢野賢一助手が岐阜大学工学部に助教授として、精密加工研究室の澁谷秀雄助手が埼玉大学大学院理工学研究科に、それぞれ転出されました。おなじく4月1日付けで水上良明助手が精密加工研究室に、武田淳仁助手が医療・福祉材料工学研究室に赴任されました。また4月15日には、銭立和工学部研究員（研究支援）が医療・福祉材料工学研究室に赴任されました。5月には、材料機能制御研究室の中山博行工学部研究員（研究支援）が離任されました。現在の系事務室（総務部総務課学系係）は、大宮明代さんです。その他の当系の近況につきましては、

ホームページ (<http://www.tutpse.tut.ac.jp>) で随時報告しておりますので御覧下さい。

末筆ながら、皆様の御健康と益々のご発展を御祈念いたすとともに、近くへお越しの際には大学にお立ち寄り下さり、近況等お話し下さるようお願い申し上げます。

【材料工学講座】

教 授：川上正博（系長）、梅本 実（工作センター長）、
新家光雄
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二
助手・教務職員：Gunawarman、赤堀俊和、戸高義一（工作
センター）、武田淳仁、森田繁樹

【生産計画学講座】

教 授：清水良明、寺嶋一彦
助教授・講師：三宅哲夫、堀畑 聡、樋野 励、三好孝典
助 手：柳 在圭

【加工学講座】

教 授：堀内 宰、森 謙一郎、福本昌宏（系長補佐）
助教授・講師：牧清二郎、安井利明（工作センター）
助手・技官：水上良明、小楠和彦、椿 正己

着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 水 上 良 明

4月1日付けで生産システム工学系の助手として着任した水上良明です。私は8年間製薬企業に勤務し、その後大学院博士課程を経て、本年度から大学での教育および研究に携わるようになりました。富山県で生まれ、東京、大阪と渡り歩き、今年4月に家族で豊橋に越して来ましたが、風の強い豊橋の気候には今も少し戸惑っています。

さて、企業に勤務していた頃は医療機器の研究開発に従事し、主に病気の原因や薬の効果・副作用などを



遺伝子レベルで迅速かつ簡便に診断することを目的としたマイクロチップ（m-TAS）やその周辺要素技術である微細加工法に関する基礎研究を行っていました。また、大学院では超硬合金など難加工材を対象とした三次元の自由形状成形法の研究を行い、これまで積層造形法（ラピッドプロトタイプング）をベースとした研究に従事してきました。本学では、半導体プロセスを用いたMEMS（微小電気機械システム）という私にとって新たな研究分野に挑戦しようと思っています。

まだ不慣れな部分も多く未熟者ではございますが、卒業生・修了生の皆さん、どうぞ宜しくお願い致します。

着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 武 田 淳 仁

4月1日付けで、生産システム工学系の新任の教官として着任致しました武田淳仁です。今春、本学大学院博士後期課程を修了し、医療・福祉材料工学研究室の助手となりました。私は、富山工業高等専門学校機械工学科を卒業後、本学生産システム工学課程3年次に編入学し、修士課程および博士課程を通じて、市販のアルミニウム合金の各種環境中における摩擦摩耗特性評価および構造用チタン合金のフレット疲労特性評価を行ってまいりました。本年度は「人に優しいチタン製管楽器用マウス



ピースの開発および特性評価」という研究テーマで、既存の黄銅製マウスピースに見られる金属アレルギーを生じない生体に無毒性非アレルギー性金属であるチタン材料に注目し、人に優しいチタン製管楽器用マウスピースを開発することを目的とし、近隣の鋳造メーカーと共同研究することで地場産業の活性化に貢献したいと考えております。本学では学生実験を担当致しますが、卒業生でありますので様々な質問を受け付け、学生とのコミュニケーションを大切に、学生を指導しながら自分自身も成長していきたいと思っております。宜しくお願い致します。

研究室だより

精密加工研究室の近況報告

加工学講座 助手 水上 良明

卒業生・修了生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと存じます。

精密加工研究室は平成14年当時、堀内宰教授、鈴木浩文助教授、澁谷秀雄助手の3人のスタッフでしたが、その後平成15年3月に鈴木助教授が神戸大学に、また平成16年3月には澁谷助手が埼玉大学にそれぞれ転任され、現在は堀内教授と今年4月に着任した私（水上：助手）、秘書の大村さんといった構成になっています。学生は、博士課程1名、修士課程12名（特許庁から1名社会人入学）、学部生6名、海外からの研究生2名の総勢21名が在籍しています。

本研究室は、超精密マザーマシンの開発、噴射加工、研削・研磨など超精密加工についての研究を中心に、今年度からは半導体シリコンプロセスによるMEMSの研究を始めました。また、地域企業との共同研究も活発に行っており、着実に成果をあげています。詳しくは研究室のホームページに記載されていますので一度ご覧下さい。<http://premac.tutpse.tut.ac.jp/>

研究以外にも、新歓コンパ、夏のゼミ旅行、忘年会など伝統的な行事を継続的に行っており、その際は我を忘れて（意識を無くして？）無礼講で盛り上がっています。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様方の一層のご活躍を祈念するとともに、今後とも精密加工研究室をご支援下さいます様お願い申し上げます。また、近くにお越しの際は是非ともお立ち寄り下さい。



計測システム研究室の近況報告

生産計画学講座 講師 堀 畑 聡

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍されていることと思います。独立法人化に伴い学内でも再編の動きが活発になってきていますが、系や研究室の様子はこれまでと大きな変化はありません。

計測システム研究室は、現在、三宅助教授と私の2名のスタッフと修士課程の学生10名、学部4年生5名の計17名で構成されています。

本研究室では、音響・音声信号および生体信号の処理、画像計測やロボットビジョンなどの研究を行っています。具体的なテーマとしては、音響・音声信号処理では3次元音源定位や声帯振動からの音声生成などの研究、生体信号処理としては脳波データの信号処理による感性評価に関する基礎研究などです。また、画像計測に関する研究では移動物体の追跡、生産工程におけるオンライン形状計測支援、視線や触覚を介したヒューマ

ンインターフェースの構築、3次元形状の類似度評価などに関する研究を精力的に行っています。詳しくはホームページをご覧ください。<http://keisys.tutpse.tut.ac.jp/>

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念いたすと共に、これからも計測システム研究室を暖かくご支援くださるようお願い申し上げます。



医療・福祉材料工学研究室 (旧医療・福祉工学研究室)の近況報告

材料工学講座 博士2年 坂口 信人

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様方が、それぞれの立場で最善を尽くし活躍されていることと思います。

医療・福祉工学研究室の卒業生の皆様、研究室の名称が変わっていることに「おや？」と疑問を感じられませんでしたか。実は、平成16年度から医療・福祉工学研究室(新家研)は材料保証学研究室(小林研)と統合され、医療・福祉材料工学研究室として生まれ変わりました。研究室のスタッフは、新家教授、赤堀助手およびグナワルマン助手の3名に、材料保証学研究室より戸田助教授、森田教務職員および中西秘書、さらに、新任の武田助手および清水秘書の5名を加えた計8名となりました。学生の構成は、博士課程6名、修士課程21名、学部7名の計34名(うち留学生2名)です。さらに、4名の方が研究員として在籍されており、総勢46名の大所帯です。

主な研究内容は、「新しい高生体適合性ベータ型チタン合金の開発」、「新しい歯科用チタン合金と歯科精密鑄造」、「歯科用および生体金属材料のマイクロ

組織と破壊特性の解析」、「擬似生体内環境における摩擦摩耗およびフレッティング疲労特性評価」および「シンクロトン放射光CTによる破壊の3D可視化」などです。これらの詳しい内容はホームページ(<http://sp-Mac4.tutpse.tut.ac.jp>)に記載しておりますのでそちらをご覧ください。

名前は変わってしまいましたが、卒業生の皆様から受け継いだそれぞれの伝統を胸に一致団結して頑張っていきたいと思っております。



豊友会事務局から

平成15年度収支報告

収入の部	
前年度繰越金	2,768,672
会費(各系分配金)	600,000
普通預金利息	26
収支合計	3,368,698

支出の部	
会報発送作業代	35,072
会報発送代	128,930
名簿更新作業代	3,000
次年度繰越金	3,201,696
支出合計	3,368,698

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
FAX: 0532-44-6690
E-mail: admin-2@tut-ob.org
Home page: <http://www.tut-ob.org/>

代 表	三好 孝典
会計担当	戸高 義一
会報担当	赤堀 俊和
名簿担当	武田 淳仁
ホームページ担当	森田 繁樹

第三・第四工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

中村 雄一

修了生、卒業生の皆様も、ますますご活躍のこと
と思います。今年は去年の涼しい夏とはうって変
わった暑い夏となり、またようやく景気も回復の兆
しを見せ始めております。豊橋技科大もこの4月よ
り独立法人として新たに出発しましたが、電気・電
子工学系でも来年のJABEEの正式申請に向けて準
備を進めており、また7月にはCOEの中間評価を無
事終え、2年半後の最終評価に向けて邁進すると共
に、将来の研究、教育の更なる発展を目指そうとし
ております。

さて電気・電子工学系では何人かの先生方の異動
がありました。まず平成16年3月末日をもって電
子デバイス大講座教授の吉田 明先生が定年で退
官されました。一方、平成16年1月に電気システ
ム大講座に助教授として徐 国春先生を、同大講座
に助手として荒木拓人先生をお迎えしました。更に
4月には基礎電気・電子大講座の教授として福田光
男先生を、電子デバイス大講座に助教授として原田
八十雄先生をそれぞれお迎えしました。

事務室では、4月に中村友子さんが6系事務室に
移られ、その代わりとして三輪恵子さんが7系事務
室からおみえになりました。更に、6月には系事務
補佐員の山田麗子さんが出産のため退職され、その
代わりとして島津和代さんが新しく系事務補佐員
になりました。

この春の法人化によって、今後はまわりからの評
価も厳しくなると考えられますし、再編や統合など
更なる変革も予想されますが、教職員一同、今まで
以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うよう
精進してまいりたいと思います。

情報工学系

和田 和千

全国で暑さの記録が更新される中、豊橋でも今年
は真夏日が多い夏休みでした。つい先日に1学期の
期末試験を終え夏休みになったと思っていました
が、いつのまにか豊橋祇園祭やお盆は終わり、あっ
という間に2学期です。

4系では、国立大学の法人化といった大学全体で
の動きのほかに、今年度からJABEEの申請準備が
始まっています。また、学生ゼミナールを3学期に
も開催することになるなど、少しずつ変わっていま
す。そして、この一年間で多くの先生方をお迎えし
たことが一番大きな変化ではないかと思えます。こ
こで、異動された先生方をご紹介させていただきます
と、まず、昨年11月に情報処理大講座の教授に
日本IBMより青野雅樹先生が着任されました。さ
らに、12月には梅村恭司先生が情報システム大講
座の教授に、小宮常康先生が京都大学より計算機大
講座の講師に昇任され、今年2月には福村直博、上
原秀幸両先生が助教授になりました。3月には計
算機大講座へ、秋葉友良助教授が産業技術総合研
究所より、津邑公暁助手が京都大学よりいらっしや
いました。そして、青木公也先生は4月より中京大
学講師に、永持仁先生は7月より京都大学教授とな
られています。8月にはNTT未来ねっと研究所より
廣津登志夫助教授を、9月には名古屋大学より藤戸
敏弘教授を計算機大講座へお迎えしました。また、
系事務室では、この春に大宮明代さんは2系に異動
され、補佐員として松田久乃さんが来られました。

このように新鮮さが漲り、様々な変化に柔軟に対
応している4系を、今後ともよろしくご支援のほど
お願い致します。

電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男，福田光男，井上光輝

助教授：服部和雄，中村雄一，内田裕久

助手：西村一寛，稲田亮史

〈電気システム大講座〉

教授：恩田和夫，榊原建樹，長尾雅行

助教授：穂積直裕，乾 義尚，滝川浩史

助手：村上義信，荒木拓人

教務職員：桶真一郎

技官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：米津宏雄，石田 誠

助教授：原田八十雄，朴 康司，若原昭浩

澤田和明

助手：岡田 浩，高尾英邦，古川雄三

技官：足木光昭

◆ 情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一，中島 浩，藤戸敏弘

助教授：秋葉友良，廣津登志夫

講師：北岡教英，小宮常康

助手：石井利昌，津邑公暁

技官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：金子豊久，宇野洋二，青野雅樹

助教授：栗山 繁，中内茂樹，福村直博

助手：福田浩士

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭，横山光雄，梅村恭司

助教授：後藤信夫，上原秀幸

講師：和田和千

助手：野口健太郎

技官：宮脇治雄

◆ 事務官

三輪恵子，丸山利美，松田久乃，島津和代

◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

西村一寛，稲田亮史，村上義信，桶真一郎

E-mail: admin-3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

福田浩士，野口健太郎

E-mail: admin-4@tut-ob.org

(平成 16 年 9 月 1 日現在)

平成 15 年度

電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

	平成 15 年度決算
■収入の部	
平成 14 年度繰越金	5,270,818
平成 14 年度終身会費入金分	1,090,000
預金利息	71
収入合計	6,360,889
■支出の部	
平成 15 年度会報発送費	205,690
平成 15 年度会報発送作業費	112,980
小計	318,670
次年度繰越金	6,042,219
支出合計	6,360,889

～退官教官より～



電気・電子工学系 教授
吉田 明

定年退職後、少々時間的余裕が出てきたので、テレビをよく見るようになった。最近では、アメリカのメジャーリーグやアテネオリンピックの中継放送を見た。日本人の活躍が大変目立つようになり、特にオリンピックでは若い日本人の大活躍は印象深いものがあつた。国際的な大舞台にも気後れすることなく、長時間にわたる緊張した試合をこなし勝ち進んで行くには、徹底的な基本技術の繰り返し動作習得が極度に求められる。若い選手の一人がオリンピックでは、「まぐれ」で勝つことは出来ないことがわかったと言っていたのが印象に残った。「まぐれ」で負けることはあつても、「まぐれ」で勝ち

進むことは出来ない。

諸君は大学を卒業し実社会に身を投じ、最新技術革新の大波の中で日夜大健闘されていることと思う。さらに大きく発展するためには、日頃の大きな努力と知恵が必要であるとともに、基礎技術の習得とその活用を基本としなければならない。諸君は在学時代に基礎の初歩を学んだ筈であるが、常にrefreshしていく必要に迫られていることであろう。まさに、「学不可以已（学は以て已む（やむ）べからず）」（荀子）であり、常に継続して修めるべきで途中で中止すれば次のステップは望めない。基礎技術の活用・応用の知恵を磨かなければならない。桜井敏雄氏の著書で、ある名医の言葉が紹介されている。「盲腸を手術する方法を学ぶだけなら10分間もあればよい。しかし手術の途中で何か手違いが起こったときの対応の仕方を学ぶためには数年間はかかる」という言葉はよく味わってほしい。

自分のできる範囲で精一杯努力を重ね、悔いを残さないようにして下さい。決して健康を壊さないよう祈っています。

「他人よりずっと賢い必要はない。ただ一日早ければよい」（シラード）

研究室だより

超電導工学研究室

電気・電子工学専攻 修士課程 2年

石井 徹

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれ職場の最前線にて大いにご活躍のことと思います。

現在、超電導工学研究室は太田昭男教授、中村雄一助教授、稲田亮史助手のスタッフ3名とともに、修士15名、学部生6名の総勢24人のメンバーにて日々の研究生活を送っております。

現在の研究テーマとしては、a) 高温超電導線材・

バルク体の機能設計およびパワーデバイスへの応用に関する研究、b) 高温超電導厚膜を利用した高周波共振器フィルタへの応用に関する研究、c) 走査型ホール素子顕微鏡を用いた構造材の非破壊診断に関する研究の3つに大分されます。

a) のテーマでは、送電ケーブルや変圧器などへの交流電力機器への応用を念頭に、高臨界電流密度化・高強度化のための高温超電導線材作製プロセス



の開発, および低交流損失高温超電導線材の開発と評価を精力的に進めております。また, 電流リードへの応用を目指した, 強磁場・大電流用超電導バルク導体の開発と特性評価も行なっております。

b) のテーマでは, ネットワークアナライザ等の装置を用いて, 携帯電話基地局用フィルタへの高温超電導厚膜の応用を目指した研究を行なっています。また, 今年度からスペクトラムアナライザを新規に導入し, 共振特性だけではなく, 相互変調歪み特性の評価といったよりレベルの高い高周波応用の研究を行なうことが可能となりつつあります。

c) のテーマでは, 走査型マイクロホール素子顕微鏡を用いて, 様々な形状の構造用材料表面の磁気

イメージを測定することにより, 材料の疲労を非破壊で診断するという試みを行なっています。現在までに低炭素鋼, アルミニウム, ステンレス等を測定し, 興味深い結果が得られています。

各グループで行なう研究と合わせて, 最新の研究内容に触れるためにゼミを各学生が持ちまわりで行ない, その内容について熱い議論を交わしています。また, 年に一度は液体ヘリウムを使った実験を昼夜を徹して行ない, 実験を行なうと共に学生間の友好を深めています。更に, 研究室のイベントとして, 春は基礎大講座合同で遠足に出かけ(写真), 各行事の終わりには慰労会を設けて, 先生方と学生の絆を深めるとともに日々の疲れをリフレッシュしています。

現在, 研究室のWeb Site (<http://www.super.eee.tut.ac.jp>) では, 研究室の紹介やメンバーについての情報を公開しています。掲示板も開設していますので, OB/OGの皆様方のメッセージを何か書いていただけたら幸いです。

最後に, 豊橋に来られましたらぜひとも研究室にお立ち寄りください。研究室一同, 心からお待ち申しております。

クリーンパワー変換工学講座 乾研究室

電気・電子工学専攻 修士課程 2年

伊藤 信之

修了生・卒業生の皆様, ますます御健勝のことと存じます。現在, 本研究室は修士2年が5名, 修士1年が3名, 学部が4名で構成されています。このうち1名は他大学を卒業後, 入学してきました。総勢12名, 我々は乾助教授のもと日々研究に勤しんでいます。

研究内容は「固体酸化物燃料電池に関する研究」, 「リチウムイオン二次電池に関する研究」, 「分散電源システムの最適運用に関する研究」, 「超長距離超高压直流送電に関する研究」の4テーマを中心に, 環境汚染や地球温暖化等の地球環境問題や化石燃料の枯渇等のエネルギー問題を考え, 効率が高くしかもクリーンな発電技術やエネルギーロスの少ない電力輸送および貯蔵技術に関する研究を行って



います。それぞれ実験やシミュレーションにより得た成果を国内外論文誌や国内研究会・学会, 国際学会など多くの場で発表しています。また, 最近, 企業の方々と共同で, 固体高分子燃料電池の研究にも

着手しました。週に一度、報告会と称して各自の研究成果や今後の方針などについて話し合い、勉強会では発表者を中心に研究で必要な知識を幅広く吸収し研究室全体のレベルアップを図っています。

毎年夏には研究室旅行に行っていますが、今年は静岡へ行ってきました。静岡市で陶芸や和染めなどの伝統工芸を体験し、登呂遺跡と竜ヶ岩洞を見学、夜にはカラオケを歌いました。今回、乾先生が旅行に参加するという史上まれに見る出来事が起こったことによって、先輩方から引き継いだ研究室の良

い雰囲気が一層良くなったと感じます。

過日、諸先輩方が本研究室に訪問された折には楽しく貴重なお話をさせていただき、とても嬉しく思っています。今後も先輩方の御来校の予定があるといううわさを耳にしております。ご多忙とは存じますが、豊橋近辺へ来られたときには是非研究室へお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。

最後になりましたが、皆様の更なるご活躍とご健康をお祈りしております。

光半導体工学研究室

電子・情報工学専攻 博士後期課程 3年

内 海 淳 志

修了生、卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますもって、ご活躍のことと存じます。

さて、本研究室の近況について報告します。現在の研究室は、米津宏雄教授を中心として、古川雄三助手、ポスドク2名、博士4名、修士7名、学部4年生3名と秘書1名の総勢19名で構成されています。米津研究室のテーマである“シリコンと化合物半導体を融合した光電子集積回路の実現”を目的に結晶成長、プロセス、ニューロの3グループに分かれて研究をおこなっています。結晶成長グループは、シリコンに格子整合するIII-V-N混晶の結晶成長から物性の解明までをおこなっています。また、プロセスグループは、光電子集積回路を作製するためのプロセスの開発をおこなっています。ニューログループは、生体の視覚機能を光電子集積回路で実現しようとしています。これらの研究を進める環境もここ数年で格段に向上しています。特に平成15年に開設されたベンチャービジネスラボラトリーは、上記の研究を進めるのに必要不可欠な施設となっています。現在おこなっている研究のほとんどは、先輩方の研究の上に成り立っていますが、それらの成果は着実に実を結びつつあります。

研究室の行事として、毎年恒例の米津研と朴研の合同夏ゼミ旅行があります。今年は長野県の諏訪に行

き、日が暮れるまでテニスを楽しみました。また、この旅行では修了生、卒業生を迎えての宴会も毎年恒例となっております。今年も修了、卒業後の体験談や在学中の話などを聞かせていただきました。今後とも、世代を超えて交流をおこなう場として、あるいは後輩を叱咤、激励する場として利用していただきたいと思えます。詳しい研究内容や近況報告は、ホームページ(<http://www.dev.eee.tut.ac.jp/yonezulab/>)にて公開しています。お時間のあるときにでも、ご覧ください。

豊橋の近くに来られたときには、是非研究室にお立ち寄りください。ご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



並列処理研究室

電子・情報工学専攻 博士後期課程 1年

中 田 尚

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍しておられることと存じます。現在の並列処理研究室は、中島浩教授、津邑公曉助手の2名のスタッフと、博士2人、修士10人、学部4人の総勢18名で構成されています。津邑先生は昨年度から京都大学より赴任されました。また、大野先生は14年度より三重大学へ移られました。

さて、研究室の近況をご報告致します。13年10月より中島教授を研究代表者として科学技術振興事業団・戦略的想像研究推進事業「低電力化とモデリング技術によるメガスケールコンピューティング」がスタートしました。このプロジェクトはPflopsクラスの超高性能計算を持つ百万プロセッサ級のシステム実現のための諸技術を、Feasibility, Dependability, Programmabilityの3つのポイントを重視しつつ開発することを目的としています。また、このプロジェクトは豊橋技術科学大学をはじめ、5つの研究期間と共同で行われています。本研究室では、「プログラミング技術」をサブテーマとして担当し、「タスク並列スクリプト言語：MegaScript」, 「メガスケールシミュレータ：Anastasia」の研究を行っています。

その他に、アーキテクチャ・シミュレータの研究と

して、「高性能プロセッサの高速シミュレータ：BurstScalar」, 「共有メモリ・マシンの分散シミュレータ：Shaman」を行っています。さらに、本年度から「再利用およびCAMベースコンピュータ」の研究がスタートしました。本研究室では、以上の研究テーマに分かれ、活気ある研究を日夜行なっています。毎週木曜日に開かれる研究会では研究の状況報告を行ない、中島教授に熱い指導をしていただいています。

詳しい研究室の近況は、ホームページにて公開しておりますので、お時間があればぜひ一度ご覧下さい。また、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽にお立ちよりください。研究室一同、心から歓迎いたします。



画像工学研究室

電子・情報工学専攻 博士後期課程 2年

向 井 智 彦

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在、画像工学研究室は金子教授、栗山助教授を中心に、博士3名、修士12名、学部生5名の計21名にて構成されています。

本研究室では以前からコンピュータグラフィックスの産業応用に関する研究を行っておりますが、現在は主に次の3テーマについて日々研究を行っています。

(1) デジタルヒューマン

特定の環境における人間の行動をデジタルヒューマンを用いてシミュレーションすることにより、作業の効率や居住性を検証するシステムを開発しています。

(2) スマートグラフィクス

情報可視化技術をウェブコンテンツへ展開するための基盤技術を研究しています。ウェブブラウザや携帯電話上での効率的な3次元コンテンツの表示を、X3Dを軸に研究しています。

(3) 3D画像処理

画像取得, 領域抽出, 画像認識などの処理を統合したシステムを開発しています。コンピュータグラフィクス (CG) 及びバーチャルリアリティ (VR) に関して, 基礎から応用まで幅広い研究を行っています。

また, 夏のバーベキューや忘年会等の研究室恒例のイベントに加え, 情報処理大講座のソフトボール大会やメンバーが企画する突発的なイベントなど, レクリエーションも盛んに行っています。詳しい研究内容や近況は本研究室のHP (<http://www.vcl.ics.tut.ac.jp>) をご覧いただけたら幸いです。

ご多忙とは存じますが, 豊橋にお越しの際はお気軽に本研究室へお立ち寄りください。卒業・修了後の貴



重な体験などをお話いただければ光栄です。最後になりましたが, 諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

ソフトウェアシステム研究室

電子・情報工学専攻 博士後期課程 3年

武田 善行

卒業生, 修了生の皆様, いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては, それぞれの職場において大いに活躍のことと存じます。ここで紙幅をお借りしましてソフトウェアシステム研究室の近況について報告したいと思います。

現在本研究室は, 梅村恭司教授を中心に, 博士2名, 修士9名, 学部3名にて日々研究に取り組んでおります。小規模ではありますが, 各人の個性が引き立つ, バリエーションに富んだ研究室です。ところで昨年度から今年度にかけて, 本研究室には大きな変化がありました。我らが主, 梅村恭司が計算機大講座の助教授から情報システム大講座の教授に昇進の運びと相成りまして, それに伴い教官室・研究室共に部屋を移動し, 装いを新たに再出発いたしました。

先輩方より受け継いだ良い伝統を大切に, 研究室一同気を引き締めて研究に取り組みたいと考えています。

研究活動といたしましては, 週に2度のゼミ, 2週に2度の進捗報告を通じて日々勤しんでおります。本研究室のテーマとして, コンピュータの利用技術として応用範囲が広い, WWWの諸技術, ネットワークプログラミング言語の実装技術, 推論処理, 統計処理などを研究しております。過去の研究事例には, 情報検索における関連語の重みに関する研究, 変更量に基づ



くWebページの世代管理システム, メモリ効率の良い一般化文書頻度計数アルゴリズムがあります。また, 研究ばかりではなく, 春には新歓でイタリアンを食し, 夏には海鮮を食し, 秋には焼き肉を食し, 冬には鍋を食し, 追い出しではお酒を戴くという風に季節感と美食を重んじ, 様々な行事を通じて交流を深めています。

ホームページにて研究室の近況やメンバーについて公開しておりますので是非ご覧ください。また, お近くまでお越しの際には, お気軽にご訪問頂ければ幸いです。研究室一同, ご訪問を心よりお待ちしております。最後になりますが, 諸先輩方の今後のさらなるご活躍を心よりお祈りして, 筆を置かせて頂きます。

～ 3・4系同窓会員の皆様へ～

国際学会発表奨励金（仮称）の創設について

近年、本学学生の国際学会での発表件数は増加する傾向にあります。しかし、各研究室から学生に支給される旅費は必ずしも十分な金額ではなく、自費で国際学会に参加する学生もいます。このような状況では、優れた研究成果を挙げながらも、国際学会での発表の機会を失う学生が出てしまうことが危惧されます。また、同窓会として大学の活性化に貢献することが、より強く求められています。

これらのことを背景に3・4系同窓会役員会では、大学活性化への貢献事業として、国際学会で研究発表を行う学生への奨励制度を創設するという案をまとめました。下に示しますが、その概要です。3・4系同窓会員の皆様には、「国際学会発表奨励金（仮称）」の創設およびその中身について、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

国際学会発表奨励金（仮称）の概要

- | | |
|---|--|
| <p>1. 名称
豊橋技科大3・4系同窓会 国際学会発表奨励金（仮称）</p> | <p>6. 応募資格
豊橋技科大3・4系の修士および博士課程の学生で、過去に本奨励金を受けたことが無い者。</p> |
| <p>2. 目的
国際的に意義のある研究成果を挙げた豊橋技科大3・4系の学生に、国際学会での研究発表を奨励することを目的とする。</p> | <p>7. 提出書類</p> <p>7. 1 申請書類
申込書（氏名、所属、用途等を記載）
アブストラクト
学会のプログラム等</p> <p>7. 2 支給決定後に提出する書類
振込口座申請書
誓約書（国際学会の参加や本奨励金の受領によって生ずるトラブル等の責任は、全て申請者にある旨）</p> <p>7. 3 発表後に提出する書類
講演論文集のコピー</p> |
| <p>3. 奨励金額
5万円（用途は登録料、旅費、渡航準備費等に限る）</p> | |
| <p>4. 奨励金支給件数
年間10件程度（前期、後期それぞれ5件ずつを目安に）</p> | |
| <p>5. タイムスケジュール</p> <p>5. 1 奨励金申請募集
前期：4～6月（9～2月に発表）
後期：10～11月（3～8月に発表）</p> <p>5. 2 支給決定
前期：7月頃
後期：12月頃</p> | <p>8. 審査員
3・4系同窓会役員</p> <p>9. その他
奨励金の支給を受けた学生の一部には、同窓会報に寄稿をお願いする。</p> |

第五工学系

物質工学系より

系長あいさつ

物質工学系 系長 逆井 基次

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

皆様もご存知のように、豊橋技術科学大学は、本年(平成16年)4月1日の国立大学法人豊橋技術科学大学設立式を以って新たな出発を致しました。現在、法人の長である学長のリーダーシップのもと、様々な改革のなかでより一層の発展を遂げようとしております。これら改革には、我々物質工学系からも、亀頭教授が副学長として、神野教授が学長補佐として大学運営に参画しております。

第5工学系は、独立行政法人化を期に、これまでも増して産業界はもとより広く社会のニーズに即した実践的かつ先端的な技術科学者の育成に専念する所存でおります。その一環として、日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラムの認定を翌年度申請することを計画しており、現在、系内の教育研究体制整備と改革を進めております。このことに関しましては、先に同窓生各位へアンケートを送付させていただき、多くの有益なご回答、貴重なご意見、ご助言を賜りましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

本学の独立法人化に伴う教育研究面での成果ならびに、これらを基にした社会的貢献に対し多方面から多くの期待が寄せられております。その中で大学運営への同窓生各位のご理解ならびにご支援は益々重要度を増してきております。従前に増してのご鞭撻を宜しくお願い致します。

末筆になりましたが、第5工学系同窓生各位の更なるご活躍を祈念いたします。

学内近況報告

物質工学系 西宮 伸幸

報道によると景気の先行きに明るさが見えてきたとのこと。ものづくりの現場で日本を支えている卒業生・修了生の皆さんの実感はいかがでしょうか。多くの企業は「集中と選択」を旗印にしていますから、景気が戻っても往時のような多角化にはもう走りそうもありません。今年の春から国立大学法人となった旧国立大学は競って産学連携に取り組んでいます。企業の本業回帰といかに調和を保つか、舵取りが難しくなっています。

さて、前回の近況報告以降、伊藤浩一教授が定年を迎えられ、この四月に退官されました。四月以降は「教官」ではなく「教員」という呼称に変わりましたので、これは最後の退官ということになります。最終講義、外国人研究者を招いてのシンポジウム、退官記念パーティー



等を通して、伊藤先生は「かたくなに」という生き方を後進に印象づけられました。このことを敷衍して書くという意味がなくてばやけてしまいます。ガラス細工を自らやっておられた姿に象徴される、としておきます。

新しいメンバーとしては、昨年12月に柴富一孝助手が着任され、今年4月に原口直樹助手が赴任して来られました。お二人ともアメリカの大学の博士研究員からのご栄転です。さらに5月には吉田絵里助教授が京都工芸繊維大学から移ってこられました。“非両親媒性”ポリマーのミセル形成その他、興味深い研究を展開されています。

役職関係では、逆井基次先生が系長として3年目を迎えられたほか、亀頭直樹先生はこれまでの附属図書館長、工学教育国際協力研究センター長という役職に加えて、この四月から副学長という重責を担われています。また、神野清勝先生は、これまでも将来構想担当として種々の会議を仕切ってこられました。四月からは学長補佐という肩書きのもとで活躍されています。さらに角田範義先生も全学の委員会の長となられ、系内の就職担当と併せて超人的な活躍ぶりを見せておられます。

ところで、組織・人員表からお気づきと思いますが、このほど「教員のカオが見える物質工学系」を合言葉にして機構改革が行われました。学生定員の確保、時代への対応など、将来構想に関わる議論を踏まえたものです。平成17年度にはJABEE(日本技術者認定制度)対応本番を迎えます。この関係で卒業生・修了生の皆さんにアンケートの協力をいただいておりますが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。難しい時代だからこそ、現役OB一体となって、豊橋技術科学大学物質工学系の存在感を高めて行きましょう。

[工業無機化学大講座]	
環境触媒化学研究室	: 角田範義 教授、大北博宣 教務職員
(旧: 無機物性工学研究室)	水嶋生智 講師
物質開発研究室	: 亀頭直樹 教授、佐藤裕久 助手
(旧: 応用物理化学研究室)	大串達夫 助教授
無機材料創製工学研究室	: 逆井基次 教授、武藤浩行 助手
(旧: 無機材料工学研究室)	松田厚範 助教授
[工業分析化学大講座]	
分離科学研究室	: 神野清勝 教授、齊戸美弘 助手
(旧: 分離定量分析化学研究室)	平田幸夫 助教授
生命構造機能化学研究室	: 青木克之 教授、藤澤郁英 教務職員
(旧: 生化学研究室)	吉田祥子 講師
[工業有機化学大講座]	
生命分子化学研究室	: 伊津野真一 教授、原口直樹 助手
(旧: 有機材料工学研究室)	吉田絵里 助教授
精密有機化学研究室	: 岩佐精二 助教授、柴富一孝 助手
(旧: 応用有機化学研究室)	
複合機能材料研究室	: 竹市 力 教授
(旧: 複合材料工学研究室)	松本明彦 助教授
水素材料工学研究室	: 西宮伸幸 助教授
(旧: 水素材料工学研究室)	
[分析計測センター]	
計測化学研究室	: 服部敏明 助教授、加藤 亮 助手
(旧: 計測化学研究室)	
[工学教育国際協力研究センター]	
[技術専門職員]	: 太田初一、齊藤年秀
[第五工学系事務員]	: 鈴木いずみ

(御連絡) 第五工学系の系内再編に伴い

1. 各研究室名が変更になりました
2. 各研究室に所属する講師以上の教員は、研究室内で独立し独自の研究室を立ち上げる事となりました
3. 助手、教務職員は講師以上の教員1名との共同研究体制となりました

研究室だより

環境触媒化学研究室

物質工学専攻 修士2年 篠 頼 継

修了生・卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場においてご活躍されている事と存じます。

現在の環境触媒化学研究室は、角田範義教授、水嶋生智講師、大北博宣教務職員の下、博士1名、修士10名、学部6名、総勢17名（内留学生4名）にて日々研究へと取り組んでおります。そのうち修士1名がフィンランドへ半年間の留学に行っております。他研究室に比べてかなりの大所帯ですが、みんな仲が良く活気がやる気が漲る研究室です。

さて、そんな私達が現在取り組んでいる研究テーマを各グループ別に簡単に紹介致します。

角田・大北グループは、「自動車触媒」、「活性炭」、「光触媒」、「固体酸ゼオライト触媒」の研究を、水嶋グループは「プラズマ」、「メタン・エタンの部分酸化反応用触媒」に関する研究を行っています。さらに、今年は春・秋の触媒討論会、日本ゾル-ゲル学会、中部化学関係学協会支部連合研究発表会、日本吸着学会など種々の学会に勢力的に参加し、日々の研究の成果を発表しております。

研究室のイベントでは、春は花見、新人歓迎会、夏は研究室旅行、冬は忘年会・追出しコンパと1年を通して多くの宴会があり、日々の仕事（研究）疲れを飲み合い、語り合う中でリフレッシュしております。また、恒例のソフトボール大会（今年度優勝）、夏の研究室旅行と学生達はもちろん先生も精力的に参加し楽しんでます。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋へお越しの際は是非本研究室へお立ち寄り頂きましてご助言等頂きましたら光栄です。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご躍進、ご発展を心よりお祈り申し上げ近況報告とさせていただきます。



分離科学研究室

物質工学専攻 修士1年 小川 満 弘

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。各分野において大いに活躍の事と存じます。

現在の神野・平田研究室は、3名の教員、博士5名、修士6名、学部11名、研究生1名を含む、総勢26名の個性豊かなメンバーで構成されています。

最近研究に取り組んでいるテーマは、神野グループでは、1) 液体クロマトグラフィーにおける保持メカニズムの解明と新規カラム固定相の開発、2) キャピラリー電気泳動およびキャピラリー電気クロマトグラフィーにおける新規分離法の開発、3) 抽出媒体として繊維を用いた新規マイクロ前処理技術の開発、および4) 繊維を担体として利用した高温用分離用ガスクロマトグラフィーカラムの開発、繊維の表面誘導体化による新規抽出・分離メディアの開発およびその応用などです。

平田グループでは、1) 溶媒除去装置を含む順相-逆相二次元液体クロマトグラフィーシステムの開発、2) 超臨

界抽出-超臨界クロマトグラフィーに関する研究、3) 超臨界流体クロマトグラフィーにおける分離選択の調節の研究などについて取り組んでいます。

これらのテーマに関連した周辺技術の研究も同時に行っています。各グループとも神野教授・平田助教授の両指導教員の熱心で丁寧なご指導のもと、日々、実験に励んでいます。得られた研究成果は卒業研究発表会や修士論文審査会のみならず、関連する学会等で積極的に発表しています。

学部学生と修士学生は、国内の学会発表が主な学外発表の場ですが、国内外で開催される国際会議においても博士課程の学生を中心に研究成果発表をしています。学外での発表は、十分に準備したつもりでも直前になると緊張し、毎回準備不足を反省しますが、多くの研究者からの質問やコメントは、以後の研究を進めていく上で大変貴重な情報です。

現在の研究室は十年くらい前の状態に比べても、かなり設備が充実したとのことです。特に、主として研究を行っている、液体クロマトグラフ、ガスクロマトグラフ、電気泳動分析装置、質量分析計などの実験装置が新規に導入されているほか、コンピューターの利用環境も格段に向上しています。以前は実験装置やデータの取り込み、あるいは発表資料の作成などにおいても、苦勞が絶えなかったなどの話を聞くと、その環境の中でも多くの優れた研究成果をあげてこられた研究室の先輩方の真の実力を思い知ると共に、自分達が今、いかに恵まれた環境下で教育を受けているのかを改めて感じます。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご発展、ご活躍を心からお祈り致しております。

精密有機化学研究室

機能材料工学専攻 1年 竹本 年 秀

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれ、大学での経験を糧に大いに活躍の事と存じます。

一昨年、西山久雄教授が名古屋大学へ、本山幸弘助手が九州大学へと転任されました。そして、新しく柴富一孝助手がシカゴ大学から着任されました。また、本年度から研究室は「精密有機化学研究室」へと変わりました。現在は岩佐精二助教授と、柴富一孝助手とともに、博士3名、修士4名、学部生6名の総勢15名で日々研究に励んでおります。現在の私達の研究室では、①新規不斉配位子の合成とその触媒的不斉合成反応への応用。②遷移金属錯体の合成並びに構造解析。などについて精力的に研究を行っております。さらに、毎週行っているグループミーティングでは、研究報告と雑誌会を行っており、個々の研究の進捗度と新着雑誌から最新の論文の紹介をしています。また、研究室のイベントでは毎年夏に行われる研究室旅行や、新入生歓迎会、忘年会、新年会などを行ってリフレッシュさせております。さらに、名古屋大学の西山研、石原研とのソフトボール大会も毎年行っています。

卒業生の皆様、豊橋に来られることがございましたら、どうぞお気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎致します。

最後になりましたが、諸先輩方の更なるご活躍を心からお祈り致しております。



新任教員より

着任のご挨拶

物質工学系助教授 吉田 絵里

5月1日付けで物質工学系助教授に着任致しました。豊橋の田園風景を眺めながら、落ち着いて教育・研究に専心できる環境を与えられたことに心から感謝致しております。

私は1994年に東京工業大学大学院博士課程を修了後、4月まで京都工芸繊維大学繊維学部高分子学科で、主として、ラジカル重合を用いた高分子の精密合成と、その高分子によって形成される集合体の科学について研究を行って参りました。高分子という専門性の濃かった学科を離れ、豊橋技科大では、異なる専門分野の先生方と日常の中で自然に交流ができ、お互いの研究を尊重し合いながら、自由な発想で研究や教育ができることに、大きな喜びを感じております。

また、私が学生時代、毎日通学に利用していた電車が渥美線を走っており、知らない土地に来て驚きと同時に、懐かしいような親しみを感じております。豊橋の自然に癒されながら、腰を据えて教育・研究に取り組みたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。



力しています。本年度より国立大学の独立行政法人化法が施行され、大学研究を取り巻く環境が大きく変化しますが、大学ならではの質の高い研究の実践を第一に考えて良い仕事をしていきたいと思っております。趣味はバドミントンで、たまに大学のバドミントン部にもお邪魔させてもらってます。OB諸兄で近在の方、ぜひ体育館へお越し下さい。末筆になりましたが、卒業生、修了生の皆様、どうぞよろしくお願致します。

着任のご挨拶

物質工学系助手 原口 直樹



卒業生、修了生の皆様、はじめまして。4月1日付けで物質工学系の助手として着任いたしました原口直樹です。出身地は埼玉県で、学生時代は埼玉と東京で過ごしてきました。

私は学部から博士後期課程まで東京工業大学で学び、リビングアニオン重合を用いた構造の明確な末端官能基化ポリマーおよび分岐ポリマーの合成を行ってきました。博士後期課程修了後から本学着任直前までの間は、米国ミネソタ州立大学化学科で博士研究員として研究を行っていました。ミネソタ州はアメリカ合衆国の中北部、カナダとの国境に位置しており、冬は寒さが厳しく、-20度以下になることもしばしばですが、豊かな四季と1万5千以上の湖のある自然に富んだ地域です。ミネソタではメディカル系の研究室と共同で行うプロジェクトに参加する機会に恵まれ、抗ガン作用についての研究を行っていました。私の担当は有機合成でしたが、他分野の研究者とのプロジェクトに関する議論や交流は非常に有意義でした。今後はこれまでの経験を生かして、新規機能性高分子の設計および合成を中心とした研究を進めていながら、学部生、院生に研究することの楽しさ・面白さを伝えていけたらと思います。まだ経験が浅く、至らない点が多々あると思っております。どうぞ宜しくお願致します。

着任のご挨拶

物質工学系助手 柴富 一孝

昨年12月1日付けで物質工学系助手に着任いたしました。名古屋市立大学薬学部にて博士課程を修了後、岡崎国立共同研究機構分子科学研究所、シカゴ大学にてポスドクとして研究してきており、なにやら愛知県に縁があるようです。専門は有機合成化学および有機金属化学で、特に新規触媒的不斉合成反応の開発に注



退官教官より

つれづれに、ひたすらに

物質工学系 名誉教授 伊藤 浩一

この3月末日に何とか無事定年を迎えて、何とか晴耕雨読の日々を送っています。思えば、昭和32年春の大学入学から47年を経てようやく「卒業」ということになります。我ながらよく我慢したな、という思いと、それなりの波乱万丈もあったか、との思いが交錯します。「最終講義」とダブリますが、



少し振り返らせていただきます。

郷里の田舎(福井県立大野高校)から名古屋(名大)に出てきたのは、父の戦死で片親育ちの私を親戚が不憫に思って喚んでくれたからで、高校の担任の真摯な生き方に共鳴して、好きな化学に進めればという程度の思いでした。貧乏学生で教養部時代は授業もさほど面白くなく、むしろバイト(当時中日球場での売り子、中元配達、家庭教師など、今思えば懐かしい)に精を出していました。学問・研究に興味を持ったのは工学部

に進んで、専門の講義と先生方の情熱に出会ってからで、爾来、自分の非才を忘れて大学人生を歩んできたこととなります。

卒研で与えられたテーマは「ポリソープ」でした。界面活性剤（石鹼）は、疎水性の尾と親水性の頭を含む分子構造のために、水中、ミセルという集合体を形成して、例えば油溶性物質を可溶化しますが、ある濃度（cmc）以上が条件です。ならば、疎水性-親水性基の両者を高分子状につなげば、“濃度0”から界面活性機能を示す筈では、と云う訳です。最初、親水性の高分子、デンブンやカルボキシメチルセルロースに疎水基を導入する合成実験を試みましたが、うまく行かず、結果的には高分子-界面活性剤の吸着錯体の可溶化能でお茶を濁しました。しかし、水に不溶のポリ酢酸ビニルが界面活性剤で可溶になる事実には驚き、何よりも自分の書いた論文が活字となって世に出たのは、何とも晴れ晴れしい気分です。その後の励みとなりました。修論では、ドデシルビニルエーテル-無水マレイン酸交互共重合体から誘導したポリソープが期待どおりの可溶化現象を示し、粘度、UV（当時の機器と云えば他にIRぐらいであった）の測定に明け暮れました。この時の論文も始めての英語ということと相俟って思い出深いものがあります。

博士課程に進学して昭和38年当時、日本で数台目という高分解能NMR分光器（60MHz、日本分光）が学科に設置されました。折しも、高分子鎖の立体化学がモノマー連鎖単位の次元で読める（マイクロタクチシチー）、ということで世界で注目されていました。ならば、共重合体のマイクロ構造も読めるのでは、と博士課程にいた私を教授が焚き付けました。もともと高分子の生成過程は確率過程であり、モノマー連鎖もしかりです。おかげで、付け焼き刃で勉強した確率論（マルコフ過程）も数学の美しさの一端を教えてくださいました。スチレン-メタクリル酸メチルという典型的な共重合体の¹H-NMRでメトキシ基のピークの分裂に注目して、これがモノマーの共重合と立体化学のマルコフ確率過程（末端モデル）で定量的に説明できたのは、その後間もなくでした。学位取得（1966）後 助手として8年ほどは、言わばやみくもに、さまざまな共重合系のNMRの測定と共重合解析に没頭して、それなりの論文数をかせぎました。しかし、解析という仕事のもどかしさに自問自答しつつ、当時研究室の趨勢となっていたブロック・グラフト共重合体の合成に興味を移しました。確率過程によらないで、設計して高分子を組み立てようという訳です。厳密な設計には、重合活性種が生きた

ままのいわゆるリビング重合が最適で、このために派遣されていた学生から見よう見まねで覚えたガラス細工、真空ライン操作がその後の研究の糧となりました。そのブロックで、思いがけなく重合の熱力学を実感することができました。ε-カプロラク톤のリビングアニオン開環重合が見事な平衡系となったのです。つまり、一旦重合した系が希釈によって容易に環状二量体等に解重合し、逆に濃縮によって直ちに重合するさまに興奮しました。

昭和55年豊橋技術科学大学に喚ばれて、さて何を、ということになりましたが、結局きっかけとなったポリソープの概念に舞い戻りました。お金も乏しく（実際、博士課程のできた86年までは、試薬・ガラス器具など消耗品の購入にも泣いた）、親水-疎水基を含む両親媒性（界面活性）高分子は独自の性質を示すし、それまでの自分の経験をふまれば、私なりの高分子が設計できるのでは、と考えた訳です。そうこうする内に、ポリエチレンオキシド（PEO）マクロモノマーの魅力に取り付かれました。PEO自体は親水性で、末端に疎水性重合基をつける可能性も広く、リビング重合技術があれば、ユニークな展開が期待できました。普通のイオン性界面活性剤とは逆に、親水性尾と疎水性頭を持った中性の界面活性高分子モノマーという訳です。実際、水中のミセル形成による異常に早い重合は、学生と驚喜しました。マクロモノマー自体の両親媒性は、その後 乳化・分散重合による高分子単分散微粒子（数10nm～数μm）の設計に応用でき、水溶性ブラシ高分子の特性化、ヘテロテレケリックPEOマクロモノマーへと展開しました。

いろいろなことが思い出されますが、総じていえば、我がまま気ままに「大学」を過ごしてきたと思います。とくに高大な目標を定めた訳でもなく、むしろ時流・環境にあわせてきたと思いますが、高分子の基礎化学に些かでも寄与できればとの思いで、ほとんど自分の興味中心でひたすら頑なに仕事を進めてきました。そのために多くのまわりの方々に迷惑をかけてきたと思います。多くの恩師、同僚、学生に出会ったこと、そして、それでどうしたと問われると困るような私の仕事を支えていただいたことに心より感謝申し上げたいと思います。とくに、若い同窓生諸氏には学問・研究への感動・情熱を些かでも伝えることができたかどうか心もとないところですが、「今を一生懸命に」というのが老婆心からの自省も含めた想いです。皆様のご健勝をお祈りします。

（平成16年8月3日記）

—第5 工学系同窓会収支報告—

平成15年度は予算通り執行しました。平成16年度はホームページ作成費という科目を計上していますが、実際の執行が数年無かったことから今年度からは予算を0円としました。その他の科目は昨年度と同様に予算を計上しています。

■収入の部

	平成15年度予算案	平成15年度決算	平成16年度予算案
前年度繰越金	1,766,717	1,766,717	1,958,405
会費	400,000	410,000	400,000
預金利息	400	16	20
小計	400,100	410,016	400,020
収入合計	2,166,817	2,176,733	2,358,425

■支出の部

	平成15年度予算案	平成15年度決算	平成16年度予算案
会報郵送料	170,000	165,720	170,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	10,000	9,608	10,000
謝礼	14,000	18,000	14,000
名簿管理経費	15,000	15,000	15,000
ホームページ作成費	5,000	0	0
慶弔費	0	0	0
小計	224,000	218,328	219,000
次年度繰越金	1,942,817	1,958,405	2,139,425
支出合計	2,166,817	2,176,733	2,358,425

第六工学系

建設工学系より

学内近況報告

教授 学生生活委員 本間 宏

この4月1日を期して全国の国立大学は一斉に国立大学法人に変わり、豊橋技科大も一般営利団体の仲間入りをしました。これに伴ってこれまで“教官”に分類されていた先生は“教員”となるなどの変化を受け、会計の手続き等には大きな変化がありました。

建設工学系では昨年に引き続き系長には加藤史郎先生が当たられています。この3月で三宅醇先生と北尾高嶺先生が定年により退官されました。三宅先生は名古屋に新設された東海学園大学人間健康学部で引き続き教鞭をとっておられ、豊橋と名古屋に2生活拠点を持って活躍しておられます。北尾先生は京都に戻られ、水処理に関する(株)アクアテックリサーチ社を開業されておられます。昨年3月で早期退職された中村俊六先生の席には昨年10月に青木伸一助教授が昇任され、水理学の講座を牽引されています。4月からは三宅先生の後任に大貝彰助教授が教授に昇任しました。法人化などの関係で空いた助教授の席をすぐ埋めることが出来ず、鋭意選考中です。衛生工学の講座には4月に岐阜大学工学部から井上隆信先生が教授として着任しました。また水理学の講座には工学教育国際協力研究センターとの併任で、やはり岐阜大学工学部から加藤茂助教授が着任しました。またこの講座には昨年21世紀COE研究プロジェクトの研究者として本系に加わっていた有田守氏が教務職員に採用されました。

今年の就職担当教官は角先生です。近年は修士1年生や学部3年生の2学期終了前に全学と各系毎に就職説明会を開催し、春休みには個別指導、予備面接と就職指導には熱を入れていますが、他の系に比べて大変就職の決まるのが遅くなっています。また学生が自主的にインターネットで会社にコンタクトし、説明会や面接に出かけていますが、なかなか効率良くは進んでいないようです。

大学では良い学生を集めるためにオープンキャンパスや、出張説明会を行ない、建設工学系では各先生の得意分野の高専への出張講義等を行なっています。それでも近頃は高専から地元の大学への編入が多く、学生集めには苦戦しています。

わが国の新しく発足する技術者教育施設認定制度

■新任

井上隆信 (平成16年4月から)
加藤 茂 (同)

■転出

北尾高嶺 (定年退官, 名誉教授)
三宅 醇 (同)

■現職 (2004年8月現在)

[構造大講座]

教 授：加藤史郎 (系長), 角 徹三, 河邑 眞
助 教 授：山田聖志, 倉本 洋, 三浦均也
助 手：中澤祥二, 中治弘行
技 官：金田隆文

[環境大講座]

教 授：本間 宏, 青木伸一, 井上隆信
助 教 授：松本 博
講 師：加藤 茂 (ICCEED 兼務)
助 手：山田俊郎
教務職員：有田 守
技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教 授：渡邊昭彦, 広島康裕 (系長補佐), 大貝 彰
助 教 授：泉田英雄, 加藤彰一
助 手：谷 武, 細田智久
教務職員：金 広文

JABEEへ本学科も認定を受けるべく、系を挙げて準備中です。この制度に認定されるためにはカリキュラムが確りしていることの傍証として授業予定書、経過報告書、演習のレポート、試験問題と全員の解答、解答例、成績表などのコピーを科目毎に保存し、審査員が来学したときに提示しなければならず、整理のために専用の事務員が雇われています。認定準備の打ち合わせのために毎月数回、夕方から数時間にわたる会議を繰り返しています。

独立法人化に伴って、社会貢献、産業界と共同研究を行ない、研究費を補わなければなりません。本系では東三河の各自治体と東海、東南海地震減災の研究組織を作ったり、産学協同の窓口として豊橋市中心部に駅前サテライトオフィスを開いたり、21世紀COEとあって、文部科学省の研究拠点として認定されるべく、プロジェクトを案出し研究費を申請したり、10年前には考えられなかった業務が活発に動き出しています。

退官教官より

豊橋技術科学大学退官と近況

三宅 醇

(1978 - 2004 : 豊橋技科大建設系)

(現 : 東海学園大学・人間健康学部・教授)

私は、1978年の豊橋技科大創設時に建設系教官として就任し、今春の定年退職までの26年間に技科大でお世話になりました。大学が4月から特殊法人化するというので、国立大学教官として全うしたのは私が最後のようです。

厳しい時代背景の中で、卒業生諸氏も頑張っておられることと思います。最後の一年を就職担当をいたしましたので、建設系のことの他の厳しさを実感しました。他学系もいろいろ課題はもっており、それぞれに在学中に培った「技科大魂」で乗り切ってください。

豊橋は、地方中心都市として、結構よくやっている都市の一つと考えられます。それでも10年もすると人口減の時代となりますし、駅前のダイエーや西武デパートの撤退のように、中心地の空洞化が進行しています。地価の低下の中で、いくつかのマンション建設が続いていて人口微増が活性化に連動することが期待されます。豊鉄の新豊橋駅が、豊橋駅の建物内に移動し、JR貨物線などの用地に数年がかりで、総合文化センターの建設が進む予定ですし、2007年には豊橋市政百周年も予定され、豊橋市の発展に期待感があります。

私の研究は、住宅問題・住宅計画ということで、これまでの26年間に約100人の卒業生と共に、卒論・修論・博論をつぎあって、豊橋市を何度も題材にしてきましたから、こうした研究が、将来の豊橋市のよりよい都市形成に寄与してくれることを願っています。大学も、防災や多様な形で、行政や産業とのつながりを強めつつあり、技科大の益々の発展が、地域に貢献しつつあります。



2004年8月 ソウルにて



2004年3月 ゼミ旅行（平等院にて）



2004年3月 ゼミ旅行（美山町）

私は、この4月から、名古屋市天白区の東海学園大学の新設の人間健康学部（短大部の昇格）に就任し、週の半分を通勤しています。片道2時間にいささか参っています。今年のオリンピックの日本の健闘をみると、スポーツの普及や健康づくりは、今後の大きな課題であり、今までとは違った学生群との出会いを楽しんでおります。

卒業生の皆さんの益々のご活躍を期待しています。また、時折は大学を訪問し、先生方や後輩の活躍の状況を見聞して貰いたいと思います。



2004年3月3日 最終講義の日の夜
九澤音弥君（3才）、細田八雲君（1才）

新任教官より

教授 井上 隆 信（衛生工学研究室）

4月に建設工学系の教授として着任いたしました。生まれは滋賀県大津で、その後北海道大学で6年間学び、1986年に工学研究科衛生工学専攻修士課程を修了した後、環境庁国立公害研究所（現、独立行政法人国立環境研究所）に入り、2000年からは岐阜大学工学部社会基盤工学科の助教授でした。公害研究所時代には1年間、霞ヶ関でいわゆる「役人」をやっていたのでそれを含めると4ヶ所目の職場になります。家族を伴って転々としましたが、そろそろ定住したいと考えております。

研究は、大学学部から一貫して、河川・湖沼等の水環境中における汚染物質の流出特性や流出源を明らかにする動態解明の研究を続けています。対象物質は、時々のテーマに応じて有機汚濁物質、富栄養化要因物質、微量化学汚染物質、酸性化要因物質等と変えていますが、フィールドでの観測を中心にし、特に、降雨流出時の水質変化を重点的に研究しています。豊橋技科大では、さらに、水環境の改善や保全対策についても研究を展開していきたいと考えています。

前任者の北尾教授とは研究分野が若干異なり水環境が専門ですが、衛生工学出身ですので水処理も守備範囲には入っています。同窓生の皆様のお役に立てることがございましたら協力させていただきますので、御連絡いただければ幸いです。どうぞよろしく願いたします。



研究室だより

大貝研究室（都市計画研究室）

修士課程 2年 江 本 晃 美

大貝研究室は、現在留学生5名を含む博士課程2名、修士課程18名、学部6名の計26名が在籍しています。研究室では、都市計画について都市防災グループ、地方都市グループ、まちづくりグループ、留学生グループに分かれて研究を行っています。研究室のプロジェクトとして、地元自治体やNPO法人等と協力しつつ、様々なWSの企画運営や中心市街地活性化のためのチャレンジショップなど、実際のまちづくり支援活動も行っています。こういった活動を通して、社会活動や大学、研究の地域貢献について学ぶ機会や、研究室全体で取り組むことでの一体感など良い経験をしています。

また、毎年の研究室旅行では、先生を中心にOBの方々も交えて山登りをして良い汗をかき、バーベキューなどをして親睦を深めています。普段からも飲み会やソフトボールなどを通して、コミュニケーションをとっています。

今年2004年に大貝先生が建築学会賞を受賞されると共に、本学の教授に就任されました。8月にはOBの方が発起人となられて祝賀パーティーを行うことができました。その際に先生が本学に就任され

てからの10年を振り返った冊子も作成致しました。10年という節目の年に、先生、OBの皆様、在校生とが時間を共にすることができ、本当に嬉しく思っております。最後になりましたが、卒業生の皆様の御健康と御活躍をお祈りしますと共に、次回先輩方にお会いすることができる機会を楽しみにしております。



豊橋市二川地区で行った防災ワークショップの様子

建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 中 澤 祥 二 (14期生)

平成15年9月1日から平成16年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
■残 金	
平成15年9月1日現在	1,063,998
■収入の部	
全学同窓会からの分配金(見込み)	450,000
同窓生からの寄付金	17,500
小 計	467,500
■支出の部	
全学同窓会報発送作業代・郵送代	347,479
建設工学同窓会報印刷代	145,000
図書カード	10,000
建設工学同窓会名簿発送作業代・郵送代	7,170
建設工学同窓会名簿データ変更作業代	15,000
雑費(ラベルシート、のり、封筒代)	22,352
小 計	547,001
■残 金	
平成16年9月1日現在	984,497

第七工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

知識情報工学系 系長 高橋 由雅

卒業生、修了生の皆さんにはますますご活躍のことと思います。本年4月より、私、高橋が系長、堀川教授が系長補佐を務めております。まずはじめに、この一年間の近況をお知らせします。教員の異動については分子情報工学大講座のSokratis Alikhanidi助手が3月で任期を終え、母国ウクライナに帰国されました。また、4月には同大講座の船津公人助教授が東京大学大学院工学系研究科に栄転されました。5月には昨年度在外研究員として米国シカゴ大学に派遣されておりました機能情報工学大講座の滝沢穂高助手が復帰されました。また、系事務の三輪恵子さんが4系事務へ異動となり、4月より佐野友子さんが本系事務を担当しております。技術専門職員の小西和孝さん、系の就職事務を中心にお手伝い頂いています河合奈穂子さん（旧姓小川）も元気で活躍頂いております。

ご承知のように近年の就職事情には厳しいものがありますが、お蔭様で本系の学部生・大学院生の就職状況は良好に推移しており、今春の結果も好調であったことを報告申し上げます。これも本系創設以来10余年に渡る同窓先輩諸兄の活躍があつてのことと思います。今後ともよろしくご支援頂きますようお願い申し上げます。

ところで、本系ではインターネット時代の情報発信に不可欠な英語活用能力の益々の重要性から、平成10年度より、学生個々の英語能力の確認と継続学習への動機付けを目的とし、4年次4月にTOEICの全員受験（費用は系負担）を課してきました。また、その後数年の経験を踏まえ、大学院進学後の学生の英語学習をフォローアップする意味から、平成14年度には経験豊富なネイティブスピーカーを非常勤講師として招き、大学院知識情報工学専攻の正式な科目として「知識情報英語」を開講するとともに修士1年次生全員に履修を勧めました。この試みは大変好評であり、系内の議論を経て本年度2学期からはさらに1名の非常勤講師をお願いし、2クラス開講による少人数教育の体制を整えました。専門教育は勿論のこと、系独自の語学教育も含め、今後も引き続き状況の変化に即応したカリキュラムの改訂、強化に努めていきたいと考えております。本学も本年4月1日から国立大学法人として再スタートしましたが、大学の果たす本来の使命が変わるものではありません。本学・本系の教育のより一層の充実に向け、同窓生の皆様からも忌憚のないご意見、ご提言を頂ければ幸いです。

末尾ながら、卒業生・修了生のみなさまのご健康と益々のご活躍をお祈りします。

教職員一覧及び学生現員（平成16年9月現在）

〔情報科学大講座〕

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助 教授：河合和久、市川周一
 講 師：村越一支
 助 手：渡邊裕司、相田 慎

〔機能情報工学大講座〕

教授：山本真司、新田恒雄、堀川順生
 助 教授：金澤 靖、杉浦彰彦、北崎充晃
 助 手：滝沢穂高、桂田浩一

〔分子情報工学大講座〕

教授：阿部英次、関野秀男、高橋由雅
 助 教授：栗田典之、後藤仁志
 助 手：加藤博明、墨 智成

〔事務関係〕

事務 員：佐野友子
 技術専門職員：小西和孝
 事務補佐員：河合奈穂子

〔学生現員〕

学 部：1年次12名、2年次16名、
 3年次59名、4年次64名
 修 士：1年次50名、2年次59名

同窓会事務局より

〈平成15年度収支報告〉

豊橋技術科学大学 7系同窓会
 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号884420

項 目	平成15年度決算
〈収入の部〉	
前年度繰越金	3,334,928
会費（各系分配金）	510,000
預金利	28
収入合計	3,844,956
〈支出の部〉	
会報経費	
会報発送費	90,720
会報発送作業費	17,614
原稿執筆御礼	10,000
名簿管理経費	15,000
リサイクルボックス*	23,832
小計	157,166
次年度繰越金	3,687,790
支出合計	3,844,956

* リサイクルボックス寄贈の詳細については、前年度（第21号）同窓会報をご参照下さい。

研究室だより

〈機能情報工学大講座〉

山本研究室の近況

電子・情報工学専攻 博士3年 深野元太郎

卒業生、修了生のみならず、お変わりなくお過ごしでしょうか。技科大で学ばれたことを糧に、大いにご活躍のことと存じます。この場をお借りして、山本研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在のメンバーは、山本真司教授、滝沢穂高助手、情報処理センターの水野慎士助手の3名の先生方と、博士1名、修士6名、学部3名の学生、計13名で構成されています。現在、研究室では下記の3つのテーマに取り組んでいます。

- ① 肺がん診断支援システム (Cady-Luc; キャディラック) の開発
- ② 中途失明者向けオンライン日本語入力システムの開発
- ③ CGを用いた仮想版画に関する研究

肺がん診断支援のテーマは、現在、研究室内で最も力を入れているテーマで、OBでもある仙台電波工業高等専門学校との奥村俊昭講師と共に研究を進めており、配属学生も8名と最大になっています。近年は、実用化に向けて認識精度を大きく向上させるため、昼夜を問わず研究に励んでいます。中途失明者向け文字認識のテーマでは、OBの熊本電波工業高等専門学校の清田公保助教授、鳥羽商船高等専門学校の江崎修央講師と学生1名とで進めています。近年ではPDAに搭載するなど、障害者のIT利用に大きく貢献しています。仮想版画のテーマは、主に水野助手が担当し、1名の学生と進めています。ペンタブレットを彫刻刀とみなしたインタフェースや、多色刷りに対応するなど、他に類をみ

ない独創的な研究を行っています。

さて、1990年に山本研が発足して以来、実に75名もの卒業生・修了生が社会へと巣立ちました。先輩方も多岐に渡ってご活躍のこととお伺いしております。15年間の歴史を持つ山本研ですが、山本先生は明年3月をもって定年退職をお迎えになられます。山本先生の技科大での総決算をすべく、私たち在校生も微力ながら全力でがんばっています。先生の退職後は、ウェブサイトならびにOBOGメーリングリストは、有志により [parl.jp](http://www.parl.jp) へと移管されることが決まっております。詳しくは、<http://www.parl.jp> をご覧ください。

皆様、日々ご多忙のこととは存じ上げますが、豊橋を訪れることがありましたら、是非、お立ち寄りください。最後になりましたが、皆様の更なるご活躍、ならびにご健康をお祈りしております。



〈分子情報工学大講座〉

高橋研究室の近況

機能材料工学専攻 博士3年 藤島悟志

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。各分野の最前線で大いにご活躍のことと存じます。現在の高橋研究室は、高橋由雅教授のもと、博士1名、修士5名、学部3名の総勢10名で構成されています。日々、高橋先生ご指導のもと、楽しく、ときには厳しく研究

に励んでいます。

本研究室では分子構造情報処理のためのアルゴリズムやシステム化に関する様々な研究を基礎・応用の両面から進めています。現在、化学物質の構造データマイニングのための基盤技術の一つとして、構造類似性

を基礎とした化学データマイニング、ならびにチャンス発見のための効果的な手法の確立を目指し、新規有用化学物質の候補構造の探索やリスク評価における特性予測や活性クラス分類問題への応用の可能性についての研究、そして、そのための可視化ツールなどの開発を行っています。また、新たな化学構造の表現方法として分子ミュージックについても研究しています。現在の研究テーマの一部を以下に示します。

- ① TFS法を用いた化学構造データマイニングに関する研究
- ② 索引層を用いたSOM (Self-Organizing Map) の学習高速化アルゴリズム
- ③ NonTerminal vertex Graph (NTG) を利用した薬物の構造特徴解析
- ④ 骨格類似性を優先した構造類似性解析
- ⑤ TFS/SVM (TFS-based Support Vector Machine) を用いた薬物活性クラス分類とリスクレポート
- ⑥ DNAミュージックに関する研究

今年度も、研究室メンバー全員で研究に励み、学術論文の執筆や学会発表を行っています。研究室の行事としては、輪講や月例報告会をはじめとし、お祝い事には先生も交えて祝杯を挙げています。また、バーベ

キューや芋煮会、阿部研究室とのスポーツ交流会なども行っています。

皆様、ご多忙のことかと存じますが、近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。研究室の状況などはホームページ (<http://www.mis.tutkie.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますのでご覧頂ければ幸いです。最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同祈念致しております。



〈情報科学大講座〉

市川研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 高橋 翔

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本研究室は現在、市川助教授のもと修士4名、学部3名で構成されています。学生数は多くありませんが機材は豊富で、各自が設備を自由に使うのびのび研究活動に打ち込んでいます。本研究室では、市川助教授の指導で次の3つの研究課題に取り組んでいます。

① 再構成可能計算システム

書き換え可能な集積回路 (FPGA) を利用した研究です。FPGAでは、通常の集積回路と違って、回路を何度も書き換えることができます。そのため、アプリケーションウェアの機能 (の一部) をFPGA上に専用ハードウェアとして実現し、高速に実行することができます。本研究室では、計算困難問題専用回路や実時間制御回路についてFPGAの有用性を研究しています。応用によっては、FPGAを利用することでソフトウェアより数十〜数百倍高速であることがわかっています。

② 電子透かし

電子透かしとは、デジタルデータに著作権情報などを埋め込むことをいいます。映像や音楽に電子透かしを埋め込めば、著作権情報を隠すことができ、改ざん

や不正コピーを防ぐことができます。また、画像だけでなく、プログラムにも電子透かしを埋め込むことができます。プログラム中の関数の実行順序を変える、データ領域にグラフを作るなどして、透かし情報を埋め込みます。現在は、プログラムに電子透かしを埋め込んだ場合の、プログラムサイズの変化や、性能の変化を定量的に測定する研究が行われています。また、透かしの評価方法を考察することも重要です。透かしが見破られないことも重要ですが、プログラムの性能に変化を与えないことも重要だからです。

③ PCクラスタと並列処理

本研究室には、PCをネットワークで接続したPCクラスタがあります。処理時間のかかる処理を、複数のPCに分散させて高速に処理させます。1台では実用に耐えない処理が、快適に処理できます。私 (高橋) は卒業研究から現在まで、複数のセンサーから入力される画像情報をPCクラスタで高速に信号処理する研究をしています。

PCを闇雲に増やしても高速になるわけではありません。通信時間がかかるので、実行方法が悪いと、1台で

実行するより遅くなることもあります。計算モデルを作り、最適な実行条件を探ることが必要となります。本研究室では、並列計算機上で最適な実行方法を探す研究（負荷分散）も続けています。

詳しい研究情報や、研究室の近況につきましては、Webページ (<http://www.ich.tutkie.tut.ac.jp>) をご覧ください。最後に、卒業生・修了生の皆様のご活躍をお祈りしております。豊橋を訪れた際には、ぜひとも研究室にお立ち寄りください。



OB・OGより

斉藤制海先生の還暦を祝う会を終えて

阿 向 賢 太 郎 (情報工学系 1992年修了)



5月22日、熱海のホテルで一泊二日の『斉藤先生の還暦を祝う会』が開催されました。斉藤制海先生は4系から7系に移られた後、現在は千葉大学教授として御教鞭をとられています。私は学部及び修士課程の期間、斉藤先生の研究室で御指導いただきました。

今回、私は主幹事の高橋岳之先生（1985年修了）をお手伝いし、副幹事を務めさせていただきました。当日は、あいにく小雨のぱらつく天候でしたが、遠くは秋田県や山口県から50名近くの斉藤研及び阿部研のOBの方々に参加いただきました。我々が受付の準備をしていたところ、受付時間1時間前に一番乗りされたのは、なんと、斉藤先生でした。

宴会は、1期生の板谷さんの乾杯で始まり、4系1期から7系6期までの参加者全員の近況や斉藤研の思い出等を先生に報告いたしました。私（11期）の頃の斉藤研といえば学生からは『夏季マラソン』（技科大から伊

良湖までの約33キロを走破する斉藤研恒例夏季行事）という体育会系的イメージでしたが、研究室初期の頃は堅実・真面目なイメージだったということをお聞きし驚きました（注：我々も真面目に研究をしていました）。

OBの皆さんのお話はどなたもユーモアに富んでおり、斉藤先生からも近況や研究室での思い出などお話しいただき、往時の斉藤研究室の雰囲気がよく出てくるようでした。話は深夜まで続き、本当に楽しい充実した時間を過ごすことができました。

斉藤先生をはじめ遠いところをご参加頂いたOBの皆様、いろいろな注文を快く受け入れてくださったホテルのスタッフの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

斉藤先生、次は喜寿を祝う会です。楽しみにしております。

第八工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

エコロジー工学系 系長 北田 敏廣

エコロジー工学系関係の同窓生の皆さん、元氣でご活躍のことと存じます。エコロジー工学系の近況をご報告します。まず大学を取り巻く全国的な背景の変化として、本年4月1日から国立大学が国立大学法人化しました。豊橋技術科学大学も国立大学法人豊橋技術科学大学となりました。組織上の変化もかなりありますが、一番大きなものは、毎年国から頂く交付金の使途に自由度が与えられた半面、目標の設定を求められその達成度が外部の評価者によって評価される、さらに将来その評価に基づいて先の交付金の減額あるいは増額が起こりうることでしょう。この変化を好機と捉えるべくエコロジー工学系の教職員一同一致して教育、研究、社会への積極的な貢献に励んでいます。一例を挙げます。文部科学省の研究拠点形成費補助金に基づく21世紀COEプログラムについてはたびたび新聞等に取り上げられるので皆さんもよくご存知のことと思います。この21世紀COEに付き、豊橋技術科学大学では大学のサイズから見て異例とも思える2件のプログラムが採択されました（同窓会報20号を参照下さい）。そのうちの一つ“未来社会の生態恒常性工学”では、藤江幸一教授がプロジェクトリーダーを務められ、エコロジー工学系の教官・大学院生がプロジェクトの中核を担って活躍しています。平成14年度の第1回目に採択されたものですが、順調に成果を挙げ文字通り当該分野における世界の拠点のひとつとして成長しつつあります。

つぎに、昨年の会報第20号からの教職員の変化をご報告します。まず、エコロジー工学系元系長の松為宏幸先生は引き続き副学長として教育の質の向上を目指して全学的な立場から指導しておられます。また、菊池洋前系長の後を受け、本年4月より北田が系長を務めています。平成15年度1年間、岡崎の自然科学研究機構分子科学研究所に出向しておられた水野彰先生が復帰され系長補佐をされています。さらに、上記の藤江先生が将来構想担当の学長補佐に就任されました。田中三郎先生は平成15年度から引き続き未来流動研究センター長として活躍されています。人事面の異動としては、平成14年度末にデルカルピオ講師が、また平成15年度末に松澤有希子助手が転出されました。かわって平成16年4月より、鷺田伸明先生を京都大学教授から本系の教授として、さらに、8月より西和久先

生を三菱電機から助教授としてお迎えしました。

以上、エコロジー工学系の近況をご報告しましたが、大学も社会との積極的な交流、社会への貢献が求められています。この点で近しい仲間としての同窓会員諸氏のご協力が欠かせぬものであると思います。是非、気軽に立ち寄り、教職員に話を持ちかけてください。

[生態基礎工学大講座]

教授：平石 明, 菊池 洋
助教授：辻 秀人, 浴 俊彦, 田中 照通
助手：二又 裕之

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰, 藤江 幸一, 田中 三郎
助教授：後藤 尚弘, 桂 進司, 西 和久
助手：安田 八郎, 高島 和則, 大門 裕之
教務職員：廿日出 好

[生態環境工学大講座]

教授：松為 宏幸 (副学長), 北田 敏廣
木曾 祥秋, 鷺田 伸明
助教授：金 熙濤, 成瀬 一郎
助手：倉田 学児, 小口 達夫
教務職員：南 亘

[技 官]

坂井 悦子

[事 務]

柴田 珠子, 市橋 洋子

[学生現員] (平成16年8月1日現在)

学 部：1年次 10名, 2年次 13名,
3年次 56名, 4年次 60名,
修 士：1年次 49名, 2年次 48名

会計収支

豊橋技術科学大学 8系同窓会
三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884418
(平成15年9月1日～平成16年9月1日まで)

項 目	金 額
〈収入の部〉	
前年度繰越金	3,452,816
会費 (各系分配金)	440,000
預金利息	33
収入合計	3,892,849
〈支出の部〉	
会報発送費	77,390
図書券 (原稿執筆料)	10,000
次年度繰越金	3,805,459
支出合計	3,892,849

退官教官より

ありがとうございました

エコロジー工学系 助手 松澤 有希子

今は8月も下旬。早いもので、技科大を退職して5ヶ月を過ぎようとしています。同窓会の役員としてそれまで多くの方々に原稿の執筆を依頼致しましたが、こうして自分が書く立場になるのもおかしな感じがいたします。



今、思えば。学生の頃、私の中で“なりたくない職業”の1位はダントツで“学校の先生”でした。もともと、あがり症であり、話しをするときにどもる癖があったので、学生の頃から(さかのぼれば小学生の頃から)ずっと人に勉強を教えたり人前でしゃべったりするのが大の苦手でした。それでも、周りに人からは“そういう人に限って、なりたくない職業に就くんだよ”と言われて……。不思議なものです、技科大でお世話になることになりました。そして9年間、学生実験の一部を担当させていただきましたが、振り返ってみて言えることはエコロジーの学生の方々には“申し訳ございません”の一言です。授業時間の30分くらい前になると緊張してくるし直前には頭が真っ白になるしで、もうちょっとわかりやすく解説できれば興味を持ってもらえるのに……。と実験後に思ったこと数え切れません。今思っても、一番悔やまれる点です。

一方、研究生活はというと、非常に研究しやすい環境で活動ができ幸せでした。より実社会に関わる問題の研究に携わることができ、話しに加わるだけでなく、自身で材料に触れ試験管を動かす時間を十分いただけただので問題意識を持って実験に取り組むことができました。よく自問自答で“何がしたいか”とか“今は何をすべきか”を考えましたが、在職中は“・・・を明らかにしたい”であり“そのために実験しよう”でした。すべてそれに時間を費やしたというわけではありませんが、自分で“やりたい”と思ったことができたので充実した研究生活を過ごせたと思っています。周りに方々に感謝です。

現在。最近では区役所や社会福祉センターで週に何日かボランティア活動をしています。これまで気にも止めていなかった地域社会の取り組みや人々の生活を身近に感じることができ、毎日が新しい発見の連続で楽しく過ごしています。そして、“何がしたいか”とか“今は何をすべきか”の自問は今でも続けています。人生、これからなので。

新任教官より

ご挨拶

エコロジー工学系 教授 鷲田 伸明

4月1日付けで、エコロジー工学系の教授として着任いたしました。前職は京都大学大学院理学研究科教授で、去る3月31日に、法人化前の国立大学教官として退官しました。専門は光化学、大気化学、反応速度論、などです。1960年代に東京工業大学理工学部(理学系化学科)において、学部、修士、博士課程を終え、助手を務めた後、ボン大学(当時、西ドイツ)およびカリフォルニア大学ロアンゼルス校で博士研究員をし、1974年より、つくば市に新設された国立公害研究所(現在は国立環境研究所)に勤務し、都市大気および地球規模大気汚染に関する現象解明研究を行ってきました。1999年より京都大学に移り、大気化学や燃焼化学に係わるラジカル連鎖反応の研究を行いました。豊橋技術科学大学では教員および学生の方々と、エコロジー工学という新しい分野の研究の開拓に微力をつくしたと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



私は30年前に環境研究のスタートを切りましたが、当時と比べると研究世界に環境という言葉が溢れ、大学においても環境に係わる学部や学科が多数設置され、隔世の感がします。当時は四日市喘息、イタイイタイ病、水俣病のような社会問題化した大きな公害問題があり、国がそれらの問題に取り組むための拠点として公害研究所が設立されました。研究員200人足らずの研究所でありましたが、社会経済から、大気、水、土壌、化学物質、生物、医学にわたる我が国初の総合的な環境研究所であり、所員の平均年齢が30代前半の若い研究所でした。環境科学は巨大科学ではあるが、素粒子研究の様なたて構造ではなく、多分野にまたがる横面積の広大な巨大科学であることを認識しつつ、公害などという対象をどうやって学問化できるか、大学人から多少白い目で見られながら悩んだことを思い出します。

問題が必ずしも解決した訳ではありませんが、この30年で環境研究の課題は都市の公害問題から地球規模環境問題へ、そして低負荷循環型社会の構築へと変化しております。というより、拡大していると言った方が良いかも知れません。環境研究は、現象の解明、影響の評価、対策技術の開発、の三本の柱からなる総合的な研究です。研究者それぞれは要素研究を行うわけですが、それぞれの要素研究がジグソーパズルのように組み合わさって、初めて絵が描ける訳です。多分、ばらばらの要素研究だけでは環境研究とは言い難いと思います。当エコロジー工学ではどのような要素研究の組み合わせで全体像を構築するか、学生の教育も含めて期待される事柄は非常に大きいと思っております。

平成16年度 海外短期留学レポート



エコロジー工学課程学部4年 酒井 綾子

2004年8月から半年間、ドイツ ザクセン州の「西ザクセン応用物理大学」に留学しました。

ザクセン州について

旧東ドイツに属するザクセン州は古くから機械・自動車製造の盛んな地域として知られ、産業革命期以降のドイツで最も工業化が進んだ地域のひとつでした。1900年代の初めにHorch, Wandererなどの名車を生み、それらの自動車メーカー4社がAutounion社に合併してアウディの誕生に至ったのもこの地域です。旧東ドイツ時代には東ドイツの国民車であるトラバントがこの地で製造されていました。このような歴史やインフラを背景に、東西ドイツの統一後、西側から多くの自動車メーカーがこの地域に自動車、部品工場を開設し、現在再び自動車産業の盛んな地域となっています。また、西ザクセン応用物理大学の所在地であるZwickauは音楽家ロバート・シューマンの生まれ故郷としても知られています。

大学について

このような地域に置かれた西ザクセン応用物理大学



では、機械、電気、化学、情報といった工学系の学科の他にも、テキスタイルデザイン、外国語、経済、楽器製作など、幅広い分野の学科が設置され、地域の産業を支える人材を育成しています。

私が今回お世話になったのは、西ザクセン応用物理大学 Zwickau校 応用物理学科の研究室です。ここでは、汚染された土壌や、排水を浄化する研究が行われています。私は、教授やスタッフの皆さんの指導の下、これらの研究に関する分析を主に行いました。研究室の皆さんとは大学生活以外でも非常に親しくさせて頂き、おかげで良い思い出をたくさん作ることが出来ました。

寮生活について

滞在期間中、私は研究室から歩いて2分程の場所にある寮に住んでいました。寮は8階建ての大きな建物で、1000人以上のドイツ人学生や留学生が暮らしています。寮というよりは日本の高層マンションを思い浮かべていただくといいでしょう。例えば2人部屋なら、2LDKのマンションの「2」の部分それぞれの個室になっていて、LDKを共同で利用するといった具合です。私が住んでいたのは6LDKタイプの大きな部屋で、キッチンも住人やその友人で賑わっていました。そのため、はじめのうちは誰が本当の住人なのか分からなかった程です。しかし、そのおかげで多くの友人を得ることができ、一緒に旅行したり、イベントを計画したりと非常に楽しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。



最後になりましたが、今回の渡航に関してお世話になった方々、Gemende教授はじめ研究室の方々、Connyはじめルームメイトのみなさん、Kristinはじめ大学の友人、日本で支えてくれた友人や両親に紙面をお借りして御礼申し上げます。

研究室だより

〈生態環境工学講座〉

木曾研究室の近況

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で日々ご健勝のことと思います。それでは、木曾研究室の近況を報告致します。

現在の木曾研究室の構成は、木曾祥秋教授以下、研究員2名、博士課程2名、修士課程5名、学部生4名の計14名です。研究室はエコロジー棟4階のG-413号室にあり、主に水の浄化に関して以下の4つのテーマで研究を行っています。

①『排水処理の高度化』

排水の処理水質の高度化、難分解性物質の除去を達成するためには、従来の処理水を付加装置によって高度処理する方法だけでなく、新規な生物学的処理プロセスの開発が必要です。膜ろ過法は固液分離機能に優れた方法であり、微生物を高密度に保持できることから、より高度な処理が可能となります。本研究室では、これと同様な固液分離機能を有する安価な処理システムとして、不織布やメッシュのような透水性の高いろ過分離材を用いた、ろ過分離バイオリアクターの開発を行っています。

②『膜ろ過法による微量有機汚染物質の除去』

一般的にRO膜やNF膜は、海水の淡水化や硬度除去などのように無機イオンの除去を目的として用いられますが、低分子有機溶質もまた分離可能であることから、農薬やフタル酸エステルをはじめ環境ホルモンとして懸念されるような微量有機汚染物質の除去法としての利用について検討を行っています。また、これらの除去特性を検討するとともに、膜分離機構の解明についても、特に膜と溶質の相互作用および分子形状に着目して検討を行っています。

③『水質簡易測定法の開発』

水質の迅速なモニタリングは、環境水の水質管理のみならず高度処理を行う小規模処理施設等の管理においても不可欠であります。本研究室では、排水中の成分の一つであるリンと窒素に着目し、特別な前処理なしで簡易に測定が可能な方法として、検知管方式によるリンおよび窒素類の測定方法を開発しています。

④『栄養塩類等の除去技術開発』

排水からのリン除去およびリン回収を目的とした処理システムとして、無機イオン交換体を用いた処理技術の開発を行っています。吸着剤によるリン吸着、吸着剤の再生、再生液からのリン回収の条件等について検討を進めています。また、リン除去性能を評価するためには、従来のリン酸イオン分析法より低濃度レベルの測定が必要であることから、リン酸イオンの高感度測定法の開発も行っています。

今年度も研究室一同、研究に励んでいます。皆様、近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りになって、指導していただけたら幸いです。最後になりますが、皆様のますますのご活躍、ご発展をお祈りいたします。

(D3 九澤和充)



第九学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

吉村 弓子

9系のこの1年間の異動は、1件のみです。工学教育国際協力研究センターに黒田先生が着任されました。渋澤先生は英国・米国での研修を終えて、2月から本学の教育・研究に戻っておられます。

さて、ご存じのように4月に大学が法人化され、大学の制度・役割ともに変革が謳われています。新聞紙上でも、大学運営に経営感覚を、教養教育は不要、外国語教育は語学学校に委託、産業に役立つ教育など、過激な言葉が躍っているのをご覧になったことがあるでしょう。しかしながら、冷静に考えてみてください。すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる危険性も秘めているのではないのでしょうか。人生80年、世の中はめまぐるしく変化していきます。どのような変化にも対応して自分で考えられること、その基盤を築くことこそが本当の教育なのではないか、とお思いではありませんか。

なお、9系教官の研究論文・研究報告・研究資料の一端は、人文・社会工学系紀要『雲雀野』で紹介しています。最新号（平成16年3月発行）の目次を掲げておきます。本学図書館、各系事務室の他、全国大学・高専図書館、国立国会図書館などに収めています。一度手にとっていただければ幸いです。

『雲雀野』第26号目次

Tan Teik Wei, 丹治喜治, 安田好文, 柳田秀記「血管の力学特性評価のためのファントムの開発とその評価」

渋澤博幸「酪農廃棄物の再資源化に関する研究」

伊藤光彦「語彙意味論と有標・無標概念：JakobsonからLehrerまで」

村松由起子「日本語初級ビデオ教材を利用した日本人学生・留学生混在型クラスの日本語学習の視点から見た有効性」

吉村弓子「大学生に習得してほしい学習態度・学習技能」
デイヴィッド・レヴィン「大学間の英語学力比較：1国立大学と1私立大学のケース」

計画・経営科学講座の現況

渋澤 博幸

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと思います。最初に研究室の現状について紹介させていただきます。教授陣の山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、平松登志樹助教授そして私（渋澤博幸講師）、計画経営科学講座の5名のメンバーは元気に研究と教育に専念しております。計画経営科学講座に所属する学生は、現在、博士課程2名、

修士課程1名であり、恵まれた環境で密度の濃い教育研究活動を行っています。また、本講座の竹村絵実子秘書は、講座内のコーディネーターとして日々奮闘しています。

本講座は、教育に関しては、1系から8系の学生に対して社会科学に関連した教養の科目を提供しています。研究については、広域的・学際的な研究領域の発展を踏まえて、自然科学と社会科学を融合するアプローチを用いて、工学との接点をもちながら、広く社会・経済・経営の問題を解決するための研究を進めています。

博士課程の学生の主な研究テーマは、自然環境を考慮した都市経済モデルの開発、金融工学を応用した企業投資分析などです。前者は、環境共生と都市のあり方を理論的に分析する試みで、数値シミュレーションにより、自然環境と都市経済システムとの関係を明らかにしようとしています。後者は、多様なリスクを前提として、企業における最適投資規準を、確率微分方程式の考え方を応用してリスクの構造を明らかにしようとしています。修士課程の学生は、サプライチェーンマネジメントにおける需要予測に関する研究を進めており、多変量解析を駆使して、補修部品の需要予測の精度を高める方法を開発しています。どれも、社会的・経済的な問題ですが、質的な側面だけでなく、実際のデータを基礎に、数量的な側面をより具体化することを念頭においています。本講座の教員も、学生と一緒に日々議論を交わしながら、研究を進めています。

最後になりましたが、卒業生ならびに修了生の皆様、今後さらなるご活躍を研究室一同心より願っております。

〈教職員一覧〉

〔人文・社会工学系〕

教 授： 山本 淳（系長：併）、浜島昭二、藤原孝男、
宮田 譲、山口 誠

助 教 授： 相京邦宏、尾崎一志、中森康之、西村政人、
平松登志樹

講 師： 渋澤博幸
外国人教師： David Levin

〔語学センター〕

教 授： 小杉隆芳（センター長）、伊藤光彦、山本 淳

講 師： 田村真奈美

教務職員： 鈴木聖子

〔留学生センター〕

教 授： 山口 誠（センター長：併）、氏平明、
岩本容岳

助 教 授： 加藤三保子、吉村弓子

講 師： 村松由起子

〔体育・保健センター〕

教 授： 安田好文（センター長）

助 教 授： 柳原 大

〔未来技術流動研究センター〕

教 授： 古川泰男

助 手： 白川正知

〔工学教育国際協力研究センター〕

助 教 授： 黒田清彦

第53回東海地区国立大学体育大会総合成績一覧（男女団体別）

平成16年6月26日～27日，7月3日～4日の日程で，第53回東海地区国立大学体育大会が開催されました。

(以下成績表一覧)

項目	順位	優 勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備 考
1 陸上競技	男	岐阜大 10	静岡大 8	名大 6	愛教大 5	三重大 4	名工大 3	豊技大 2	浜松医科 1	
	女	静岡大 8	愛教大 6	名大 5	三重大 4	名工大 3	浜松医科 2	岐阜大 1		
2 水 泳	男	名大 10	三重大 8	愛教大 6	岐阜大 5	静岡大 4	名工大 6	浜松医科 2	豊技大 1	
	女	岐阜大 8	名大 6	愛教大 5	三重大 4	浜松医科 3	静岡大 2	名工大 1		
3 硬式野球		静岡大 8	愛教大 6	三重大・名大・岐阜大・名工大・豊技大 各3						
4 準硬式野球		三重大 10	豊技大 8	名大・岐阜大・名工大・愛教大・浜松医科・静岡大 各3.5						
5 テニ ス	男	名大 10	浜松医科 8	静岡大 6	岐阜大 5	三重大・名工大・豊技大・愛教大 各2.5				
	女	浜松医科 8	名大 6	静岡大 5	三重大 4	岐阜大・名工大・愛教大 各2				
6 ソフトテニス	男	静岡大 6	愛教大 5	三重大 4	岐阜大 3	名工大 2	浜松医科 1			
	女	愛教大 5	三重大 4	静岡大 3	岐阜大 2	浜松医科 1				
7 バスケットボール	男	岐阜大 10	名大 8	名工大 6	静岡大 5	三重大 4	愛教大 3	浜松医科 2	豊技大 1	
	女	静岡大 6	愛教大 5	名大 4	三重大 3	岐阜大 2	浜松医科 1			
8 バレーボール	男	静岡大 10	岐阜大 8	名大 6	三重大 5	豊技大 4	名工大 3	愛教大 2	浜松医科 棄権	
	女	岐阜大 6	静岡大 5	三重大 4	名大 3	浜松医科 2	名工大 1			
9 卓 球	男	岐阜大 8	三重大 6	静岡大 5	名工大 4	名大 3	愛教大 2	豊技大 1		
	女	静岡大 6	名工大 5	岐阜大 4	名大 3	三重大 2	愛教大 1			
10 バドミントン	男	岐阜大 10	名大 8	静岡大 6	三重大 5	浜松医科 4	名工大 3	愛教大 2	豊技大 1	
	女	静岡大 8	名大 6	三重大 5	岐阜大 4	浜松医科 3	愛教大 2	名工大 1		
11 サ ッ カ ー		名大 10	愛教大 8	静岡大 6	浜松医科 5	岐阜大 4	三重大 3	名工大 2	豊技大 1	
12 ハンドボール	男	岐阜大 8	愛教大 6	名大 5	名工大 4	静岡大 3	三重大 2	浜松医科 1		
	女	岐阜大	三重大							オープン
13 柔 道		岐阜大 6	静岡大 5	名大 4	名工大 3	愛教大 2	豊技大 棄権			
14 剣 道	男	名大 8	三重大 6	岐阜大・静岡大 各4.5		名工大・豊技大・愛教大 各2				
	女	愛教大 5	名大 4	静岡大 3	岐阜大 2	三重大 1				
15 体 操	男	岐阜大 5	名大 4	三重大 3	静岡大 2	愛教大 1				
	女	静岡大	岐阜大							オープン、名大は個人戦に出場。
16 馬 術		岐阜大 6	名工大 5	名大 4	三重大・愛教大・静岡大 各2					
17 空 手 道	男	静岡大 10	岐阜大 8	三重大 6	名大 5	浜松医科 4	名工大 3	豊技大 2	愛教大 1	
	女	静岡大 6	浜松医科 5	岐阜大 4	愛教大 3	三重大 2	名大 1			
18 弓 道	男	静岡大 8	名工大 6	名大 5	岐阜大 4	三重大・愛教大・浜松医科 各2				
	女	三重大 8	岐阜大 6	愛教大 5	名大 4	静岡大 3	名工大 2	浜松医科 1		
19 アーチェリー	男	三重大 4	岐阜大 3	名大 2	静岡大 1					愛教大は個人戦のみ出場。
	女	愛教大 5	岐阜大 4	名大 3	三重大 2	静岡大 1				
20 少林寺拳法		名大 6	愛教大 5	三重大 4	静岡大 3	岐阜大 2	名工大 1			
総合順位	男	岐阜大	名大	静岡大	三重大	愛教大	名工大	浜松医科	豊技大	
	女	静岡大	名大・岐阜大		愛教大	三重大	浜松医科	名工大		

平成15年度 卒業・修了者就職先一覧

平成16年5月1日現在

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
1	アイコム	(株)	1	0	0	1
2	愛三工業	(株)	1	0	0	1
3	アイシン・エイ・ダブリュ	(株)	0	5	0	5
4	アイシン・エーアイ	(株)	0	2	0	2
5	アイシン・エンジニアリング	(株)	0	1	0	1
6	アイシン化工	(株)	1	0	0	1
7	アイシン精機	(株)	0	1	0	1
8	アイシン高丘	(株)	0	1	0	1
9	(株)青木茂建築工房		1	0	0	1
10	青山学院大学		0	0	1	1
11	旭化成情報システム	(株)	0	1	0	1
12	旭硝子	(株)	0	0	1	1
13	旭テック	(株)	0	0	1	1
14	アシストシンコー	(株)	0	1	0	1
15	アスモ	(株)	0	2	0	2
16	(株)アブ口		0	1	0	1
17	アミタ	(株)	0	1	0	1
18	(株)アルソア本社		0	1	0	1
19	(株)アルファシステムズ		0	2	0	2
20	(株)アルプス技研		0	1	0	1
21	アルプス電気	(株)	0	1	0	1
22	(株)アロービジネスメイツ		1	0	0	1
23	アンダラス大学		0	1	0	1
24	イーソル	(株)	0	1	0	1
25	いすゞ自動車	(株)	1	0	0	1
26	(株) I N A X		0	2	1	3
27	インドネシア科学院		0	1	0	1
28	ウシオ電機	(株)	0	1	0	1
29	内浜化成	(株)	0	1	0	1
30	(株)浦野設計		0	1	0	1
31	(株)エイチ・アイ・ディ		0	1	0	1
32	S M C	(株)	0	1	0	1
33	NECモバイリング	(株)	0	1	0	1
34	エヌエスエンジニアリング	(株)	0	1	0	1
35	NSKワナー	(株)	0	1	0	1
36	N O K	(株)	0	1	0	1
37	N T N	(株)	0	1	0	1
38	NTTデータネット	(株)	0	1	0	1
39	(株)NTTドコモ関西		0	1	0	1
40	(株)NTTドコモ東海		0	2	0	2
41	榎本ビーエー	(株)	0	0	1	1
42	江間忠ウッドベアス	(株)	1	0	0	1
43	エン・ジャパン	(株)	0	1	0	1
44	(株)遠隔医療研究所		0	0	1	1
45	王子製紙	(株)	0	1	0	1
46	大阪機工	(株)	1	0	0	1
47	岡田建設	(株)	1	0	0	1
48	小倉クラッチ	(株)	1	0	0	1
49	オニオンファーム カワマタ		1	0	0	1
50	(株)尾上機械		1	0	0	1
51	(株)オノコム		0	1	0	1
52	オムロン	(株)	0	1	0	1
53	オンキヨー	(株)	0	1	0	1
54	(株)カーネルコンセプト		1	0	0	1
55	K O A	(株)	0	1	0	1
56	鹿児島市役所		1	0	0	1

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
57	鹿島建設	(株)	0	1	0	1
58	カシワギ・スイ・アソシエイツ		0	1	0	1
59	蒲郡市役所		0	1	0	1
60	カヤバ工業	(株)	0	1	0	1
61	カルソニックカンセイ	(株)	0	1	0	1
62	カルピ	一(株)	0	1	0	1
63	(株)カワサキプレジジョンマシナリ		0	1	0	1
64	川重岐阜エンジニアリング	(株)	0	1	0	1
65	(株)川本製作所		0	2	0	2
66	カンボジア王国公共事業運輸省 (Ministry of Public Works and Transport)		0	1	0	1
67	(株)技建設計		0	1	0	1
68	木更津工業高等専門学校		0	0	1	1
69	北嶋工業	(株)	0	1	0	1
70	北スマトラ大学		0	1	0	1
71	(株)キャタラー		0	2	0	2
72	キャノン	(株)	0	2	0	2
73	熊本県立大学		0	0	1	1
74	(株)クレディセゾン		1	0	0	1
75	(株)ケンウッド		1	0	0	1
76	興研	(株)	0	1	0	1
77	神戸市役所		0	1	0	1
78	(株)神戸製鋼所		0	1	1	2
79	神戸天然物化学	(株)	0	1	0	1
80	光洋精工	(株)	0	1	0	1
81	古座川町役場(和歌山県)		0	1	0	1
82	(株)コスモサミット		0	1	0	1
83	(株)コベルコ科研		0	0	1	1
84	サーラ住宅	(株)	0	1	0	1
85	(株)サムテック		0	1	0	1
86	(株)サラダコスモ		0	1	0	1
87	三栄ハイテックス	(株)	0	1	0	1
88	サンケン電気	(株)	0	1	0	1
89	サンコー	(株)	0	1	0	1
90	山陽マシン	(株)	0	1	0	1
91	三洋電機	(株)	0	1	0	1
92	(株)ジーエイテクラフト		0	1	0	1
93	J S R	(株)	0	1	0	1
94	JFEエンジニアリング	(株)	0	1	0	1
95	自衛隊		0	1	0	1
96	ジェイビーホーム	(株)	1	0	0	1
97	シグマトロン	(株)	1	0	0	1
98	(株)システマリサーチ		1	0	0	1
99	資生堂医理化テクノロジー	(株)	0	1	0	1
100	(株)島津製作所		0	2	0	2
101	シャープ SHARP MANUFACTURING CORPORATION	(株)	0	1	0	1
102	ジャトコ	(株)	0	1	0	1
103	(株)松風		0	1	0	1
104	(株)シヨーワ		0	1	0	1
105	新日本開発工業	(株)	0	1	0	1
106	新日本製鐵	(株)	0	1	0	1
107	スズキ	(株)	0	2	0	2
108	(株)スズキスポーツ		1	0	0	1
109	スター精密	(株)	0	1	0	1
110	住商情報システム	(株)	0	1	0	1
111	住友電気工業	(株)	0	1	0	1
112	住友電工情報システム	(株)	0	1	0	1

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
113	住友電装	(株)	0	1	0	1
114	セイコーエプソン	(株)	0	2	0	2
115	(株)セガ		0	1	0	1
116	積水ハウス	(株)	0	1	0	1
117	(株)仙台ニコン		0	1	0	1
118	ソニー	一(株)	0	3	1	4
119	ソニーイーエムシーエス	(株)	0	1	0	1
120	ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ	(株)	0	1	0	1
121	ソニーLSIデザイン	(株)	0	1	0	1
122	ソニーグローバルソリューションズ	(株)	0	1	0	1
123	ソニーセミコンダクタ九州	(株)	0	1	0	1
124	第一工業製薬	(株)	0	1	0	1
125	第一精工	(株)	0	1	0	1
126	ダイキン工業	(株)	0	1	0	1
127	大昭和精機	(株)	0	1	0	1
128	(株)大仙		0	1	0	1
129	ダイダン	(株)	0	2	0	2
130	タイテック	(株)	0	0	1	1
131	大同信号	(株)	1	0	0	1
132	大同特殊鋼	(株)	0	1	0	1
133	大都販売	(株)	0	1	0	1
134	(株)ダイナム		0	1	0	1
135	大日コンサルタント	(株)	0	1	0	1
136	大日本スクリーン製造	(株)	0	2	0	2
137	(株)ダイヤ分析センター		0	1	0	1
138	太陽精機	(株)	1	0	0	1
139	(株)平プロモート		0	1	0	1
140	大和ハウス工業	(株)	0	1	0	1
141	タカニチ株(旧高島屋日発工業株)		1	0	0	1
142	竹本油脂	(株)	0	1	0	1
143	(株)ダッド		1	0	0	1
144	(株)立岩		0	1	0	1
145	千葉商科大学(千葉学園)		0	0	1	1
146	中京大学		0	1	0	1
147	(株)中電シーティーアイ		0	1	0	1
148	中部日本電気ソフトウェア	(株)	0	1	0	1
149	三菱エンジニアリング	(株)	0	1	0	1
150	千代田化工建設	(株)	0	1	0	1
151	(株)鶴弥		1	1	0	2
152	T C M	(株)	0	1	0	1
153	(株)テイニス		1	0	0	1
154	Universiti Tenaga Nasional		0	1	0	1
155	(株)テレウェイブ		0	1	0	1
156	電気技術開発	(株)	0	1	0	1
157	電源開発	(株)	0	1	0	1
158	(株)デンソー		0	4	2	6
159	デンソーテクノ	(株)	0	1	0	1
160	東海園	(株)	0	1	0	1
161	東海ゴム工業	(株)	0	1	0	1
162	(株)東海分析化学研究所		0	1	0	1
163	(株)東海理化電機製作所		0	1	0	1
164	(株)東急アメニックス		1	0	0	1
165	(株)東京イーアイエス		1	0	0	1
166	東京消防庁		0	1	0	1
167	東京都板橋区役所		1	0	0	1
168	東海漬物	(株)	1	0	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
169	(株) 東 芝	0	4	0	4
170	東 陶 機 器 (株)	0	2	0	2
171	東北大学電気通信研究所	0	0	1	1
172	東北日本電気ソフトウェア(株)	0	1	0	1
173	東 洋 キ ャ リ ア 工 業 (株)	0	1	0	1
174	東 洋 鋼 鉄 (株)	0	1	0	1
175	東 洋 製 罐 (株)	0	1	0	1
176	東 洋 電 波 (株)	0	1	0	1
177	東 洋 熱 工 業 (株)	0	1	0	1
178	東 洋 瀨 機 製 造 (株)	0	1	0	1
179	(株) ト ー エ ネ ッ ク	0	1	0	1
180	(株) T O K A I	0	1	0	1
181	ト キ コ (株)	0	1	0	1
182	凸 版 印 刷 (株)	0	1	0	1
183	ト ビ ー 工 業 (株)	0	1	0	1
184	(株) 土木管理総合試験所	1	0	0	1
185	富 山 県 工 業 技 術 セ ン タ ー	0	0	1	1
186	富 山 テ レ ビ 放 送 (株)	1	0	0	1
187	豊田工業高等専門学校	0	1	0	1
188	豊 田 工 業 大 学	0	0	1	1
189	豊 田 合 成 (株)	0	1	0	1
190	ト ヨ タ 自 動 車 (株)	0	2	0	2
191	(株) 豊田自動織機	0	1	0	1
192	ト ヨ タ 車 体 (株)	1	0	0	1
193	ト ヨ タ 住 宅 (株)	0	1	0	1
194	トヨタテクノクラフト(株)	0	1	0	1
195	(株)トヨタテクノサービス	0	3	0	3
196	豊 田 紡 織 (株)	0	1	0	1
197	トヨタホーム愛知(株)	2	0	0	2
198	(株)トヨタマックス	0	2	0	2
199	豊橋技術科学大学	0	0	1	1
200	豊 橋 市 役 所	0	1	0	1
201	(株) トリケミカル研	1	0	0	1
202	長 岡 市 役 所	0	1	0	1
203	(株) 中 神 設 計 事 務 所	1	0	0	1
204	長野工業高等専門学校	0	0	1	1
205	中 村 精 機 (株)	1	0	0	1
206	名 古 屋 製 酪 (株)	0	1	0	1
207	名 古 屋 大 学	0	0	1	1
208	名 村 情 報 シ ス テ ム (株)	0	1	0	1
209	南 部 化 成 (株)	1	0	0	1
210	西 日 本 電 信 電 話 (株)	0	2	0	2
211	(株) 西原テクノサービス	0	1	0	1
212	西山ステンレスケミカル(株)	1	2	0	3
213	日 亜 化 学 工 業 (株)	0	0	1	1
214	日 揮 (株)	0	1	1	2
215	日 軽 金 ア ク ト (株)	0	1	0	1
216	日 軽 パ ネ ル シ ス テ ム (株)	0	1	0	1
217	(株) 日 産 テ ク ノ	1	0	0	1
218	日 産 自 動 車 (株)	0	1	0	1
219	日産ディーゼル工業(株)	0	1	0	1
220	(株) ニ ッ シ ン	0	1	0	1
221	(株) ニ ッ ソ ー サ ー ビ ス	0	1	0	1
222	日 東 電 工 (株)	0	1	0	1
223	ニ フ テ ィ (株)	1	0	0	1
224	日 本 コ ン ピ ュ ー タ (株)	0	1	0	1
225	日 本 コ ン ピ ュ ー タ ・ シ ス テ ム (株)	0	1	0	1
226	日 本 シ ス テ ム 開 発 (株)	0	1	0	1
227	日 本 精 工 (株)	0	1	0	1
228	日 本 精 化 (株)	0	1	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
229	日 本 電 気 化 学 (株)	0	1	0	1
230	日 本 電 産 (株)	1	0	0	1
231	日 本 電 子 (株)	0	1	0	1
232	日 本 ト レ ク ス (株)	1	0	0	1
233	日 本 プ ロ セ ス (株)	0	2	0	2
234	日 本 放 送 協 会	0	1	0	1
235	日 本 山 村 硝 子 (株)	0	1	0	1
236	(株) ニューメディア総研	0	2	0	2
237	(株) ノリタケカンパニーリミテド	0	1	0	1
238	バ イ オ ニ ア (株)	0	1	0	1
239	(株) ハ イ テ ッ ク	0	1	0	1
240	P A S C A L (株)	0	1	0	1
241	長 谷 川 香 料 (株)	0	1	0	1
242	(株) ハ ヲ タ シ	1	0	0	1
243	パ ト ム ワ ン 工 科 大 学	0	0	1	1
244	パ ナ ソ ニ ッ ク コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス (株)	0	1	0	1
245	(株) パ ナ ソ ニ ッ ク モ バ イ ル	0	1	0	1
246	浜 松 ホ ト ニ ク ス (株)	0	1	0	1
247	林 テ レ ン プ (株)	0	2	0	2
248	Habitation Company of Para State	0	1	0	1
249	半 田 市 役 所	0	1	0	1
250	東 日 本 ハ ウ ス (株)	1	0	0	1
251	東 日 本 旅 客 鉄 道 (株)	0	1	0	1
252	ビクターテクノプレーン(株)	0	1	0	1
253	日立エスケイソシヤルシステム(株)	0	1	0	1
254	日 立 化 成 工 業 (株)	0	1	0	1
255	(株)日立システムアンドサービス	0	1	0	1
256	(株)日立情報システムズ	0	1	0	1
257	(株) 日 立 製 作 所	0	4	0	4
258	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	0	1	0	1
259	日 野 自 動 車 (株)	1	0	0	1
260	日 本 ビ ー ・ ケ ミ カ ル (株)	0	1	0	1
261	(株) ヒ ミ カ	0	1	0	1
262	武 漢 化 工 学 院	0	0	1	1
263	福 助 工 業 (株)	0	1	0	1
264	(株) 富士アセンブリシステム	0	1	0	1
265	富 士 機 械 製 造 (株)	0	1	0	1
266	富 士 重 工 業 (株)	0	1	0	1
267	富 士 ゼ ロ ッ ク ス (株)	0	1	0	1
268	(株) 富士通鹿児島インフォネット	0	1	0	1
269	(株) 富士通コンピュータテクノロジーズ	0	1	0	1
270	富 士 通 サ ポ ー ト ア ン ド サ ー ビ ス (株)	0	3	0	3
271	(株) 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー	0	1	0	1
272	富 士 通 テ ン (株)	0	2	0	2
273	富 士 通 テ ン テ ク ノ ロ ジ (株)	0	2	0	2
274	(株) 富士通東北システムエンジニアリング	0	1	0	1
275	フ ジ テ ッ ク (株)	0	1	0	1
276	富 士 ハ ウ ス (株)	1	1	0	2
277	(株) フ ジ ユ ニ パ ン ス	0	2	0	2
278	フ タ バ 産 業 (株)	0	1	0	1
279	船 井 電 機 (株)	0	1	0	1
280	ブ ラ ー 工 業 (株)	0	1	0	1
281	(株) ブ ラ セ ス	1	0	0	1
282	古河インフォメーションテクノロジー(株)	0	1	0	1
283	フルキャストセントラル(株)	0	1	0	1
284	フロクター・アンド・キャンブル・ フアン・イーニスト・インク	0	1	0	1
285	PERUSAHAAN OTOMOBIL KEDUA(PERODUA) MALASIA	0	1	0	1
286	ペ ン タ ッ ク ス (株)	0	1	0	1
287	(株) ベンチャーセーフネット	0	2	0	2
288	北陸日本電気ソフトウェア(株)	0	1	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
289	北 海 道 乳 業 (株)	0	1	0	1
290	北海道ビジネスオートメーション(株)	1	0	0	1
291	本 田 技 研 工 業 (株)	0	1	0	1
292	(株) マースエンジニアリング	0	1	0	1
293	前 田 建 設 工 業 (株)	1	0	0	1
294	松 定 プ レ シ ョ ン (株)	0	1	0	1
295	松 下 エ コ シ ス テ ム ズ (株)	0	1	0	1
296	松 下 シ ス テ ム テ ク ノ (株)	0	2	0	2
297	松 下 電 器 産 業 (株)	0	5	0	5
298	松 下 半 導 体 エ ン ジ ニ ア リ ン グ (株)	0	1	0	1
299	マ ッ ダ (株)	0	1	0	1
300	三 城 設 計	0	1	0	1
301	三 井 金 属 鉱 業 (株)	0	1	0	1
302	三 菱 自 動 車 工 業 (株)	1	1	0	2
303	三 菱 自 動 車 エ ン ジ ニ ア リ ン グ (株)	0	1	0	1
304	三 菱 重 工 業 (株)	0	1	0	1
305	三 菱 電 機 (株)	0	1	0	1
306	ミ ネ ベ ア (株)	0	1	0	1
307	武 蔵 精 密 工 業 (株)	1	0	0	1
308	ム ツ ミ 工 業 (株)	0	1	0	1
309	(株) 村 上 開 明 堂	1	0	0	1
310	村 田 機 械 (株)	0	1	0	1
311	明 治 乳 業 (株)	0	1	0	1
312	(株) メ イ テ ッ ク	0	2	0	2
313	(株) メ タ ル ア ー ト	0	0	1	1
314	(株) メ ル コ	1	2	0	3
315	モ ト ロ ー ラ (株)	1	0	0	1
316	(株) モ リ タ	0	1	0	1
317	(株) モ リ ッ ク	1	0	0	1
318	(株) 八 神 製 作 所	0	1	0	1
319	矢 崎 総 業 (株)	0	2	0	2
320	矢 作 建 設 工 業 (株)	0	0	1	1
321	山 伊 建 設 (株)	1	0	0	1
322	ヤ マ ハ (株)	0	1	1	2
323	ヤ マ ハ 発 動 機 (株)	0	3	0	3
324	ヤマハリビングテック(株)	0	1	0	1
325	ヤンマーエネルギーシステム(株)	0	1	0	1
326	ユ ニ チ カ (株)	2	0	0	2
327	米 子 工 業 高 等 専 門 学 校	0	0	1	1
328	米 沢 電 気 工 事 (株)	0	1	0	1
329	ラ サ 工 業 (株)	0	1	0	1
330	理 化 学 研 究 所	0	1	1	2
331	菱 友 計 算 (株)	0	1	0	1
332	リ ン ナ イ (株)	0	1	0	1
333	(株) ルネサステクノロジ	0	1	0	1
334	(株) レ オ パ レ ス 21	0	1	0	1
335	ロ ー ム (株)	0	1	1	2
336	(株) ワ イ ・ イ ー ・ シ ー	0	2	0	2
337	和 歌 山 県 庁	1	0	0	1
	合 計	61	316	31	408

※社会人卒業・修了者の復職を除く

計	就 職 者 (男 子)	47	298	31	376
	就 職 者 (女 子)	14	18	0	32
	合 計	61	316	31	408

同窓会事務局より会員の皆様へ

—大学側との住所録の共同管理について—

同窓会会長 (5系4期) 後藤 泰 男

(E-mail: goto@i2.inax.co.jp)

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、すでにお知らせ致しましたように、豊橋技術科学大学が独立法人化されたことにより、大学の自己評価として同窓生の皆様には今年度中にアンケートを行うことが計画されています。既に一部の系では日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定のために、定期的なアンケートの実施が規定されているかと思えます。

また、「豊橋キャンパスイノベーション」(TCI) などを通して大学側からの技術情報を発信しようと幾つかのイベントが企画されております。このように大学側と同窓生の皆様が情報交換を頻繁に行うことは会員の皆様にとって有意義であり、同窓会の目的の一つである「豊橋技術科学大学の発展に寄与する」ということにも、沿うものと考えております。そのため同窓会ではこのようなイベントに積極的に参加・支援していきたくと考えております。

このようなアンケートやイベントのご案内をお知らせする際の事務作業は、現時点では同窓生の名簿管理を系毎の同窓会でやっているため、セキュリティの面に細心の注意を払いながら煩雑な作業を各系の同窓会役員が対応しています。しかしながら、今後予想される度重なる協力要請にスムーズに対応するためには、事務手続きの簡素化が必要不可欠と考えられます。そこで、同窓会では住所録の更新や管理・運営を大学側と共同で行い、各部署でバラバラに行っていた住所管理の重複を解消して、事務手続きの簡素化を図りたいと考えております。実際にこのような名簿の共同管理は、同窓会設立当初にも行われていた経緯もあり、初期の会員の皆様には、ご理解頂けるものと存じます。

もちろん、個人情報の流出が危惧されておりますが、同窓会としては住所録でもある同窓会名簿の発行を中止して全会員の情報流出を防ぐ努力をしております。今回の名簿の共同管理に関しましても、詳細については大学側と協議していく必要がありますが、同窓会では会員の皆様の利益を第一に考え、不利益を蒙らないよう細心の注意を怠らない所存であります。

最後に、同窓会も大学とともに更なる改革を行っていくことになるかと存じますが、その際には何卒ご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。

..... 同窓会事業報告および予定 (平成15年度～平成16年度)

1. 会報の発行

同窓会報第21号を平成15年12月に発行・発送しました。印刷部数は9000部、発行部数は8000部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成16年3月23日に豊橋勤労福祉会館 (アイプラザ豊橋) にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。当日は後藤同窓会長が列席し、卒業・修了生へ祝辞を贈りました。平成16年度も例年通り行う予定です。

3. クラブ活動への援助

平成15年度は、サッカー部に5万円のクラブ奨励金、男子バレーボール部に5万円のクラブ援助金を贈りました。

4. 技科大祭への援助

平成15年10月12日から13日にかけて行われた第26回技科大祭に対して、学友会を通じて10万円の資金援助を行いました。平成16年度も例年通り行う予定です。

5. 役員会の開催

平成15年8月2日に臨時役員会を、平成16年4月22日に役員会を、同年7月15日に臨時役員会を開催し、本年度の活動予定などについて話合いました。議事録は<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>をご覧ください。

6. 西永学長との懇談

平成15年7月10日、平成16年7月15日に西永学長（本会名誉顧問）と本会の後藤会長・佐藤副会長・事務局担当者等との懇談を行い、今後の同窓会の活性化策や名簿管理のあり方について意見交換を行いました。

平成16年度同窓会役員（平成16年9月現在）

会 長：後藤泰男（株式会社INAX）

副会長：佐藤裕久（豊橋技科大物質工学系）

事務局：細田智久（豊橋技科大建設工学系）

1系役員（admin-1@tut-ob.org, 会計担当）：感本広文, 関下信正, 山本高久

2系役員（admin-2@tut-ob.org, 援助活動）：三好孝典, 赤堀俊和, 戸高義一, 武田淳仁, 森田繁樹

3系役員（admin-3@tut-ob.org, 総会・役員会）：西村一寛, 稲田亮史, 村上義信, 桶真一郎

4系役員（admin-4@tut-ob.org, 会報担当）：野口健太郎, 福田浩士

5系役員（admin-5@tut-ob.org, 名簿担当）：大北博宣, 武藤浩行, 齊戸美弘

6系役員（admin-6@tut-ob.org, 事務局）：谷 武, 細田智久

7系役員（admin-7@tut-ob.org, HP・ML担当）：渋澤博幸, 加藤博明, 山田 実, 大谷真知子

8系役員（admin-8@tut-ob.org, HP・ML担当）：南 亘, 廿日出 好

名誉顧問：西永 頌（豊橋技科大学長）

会費の納入のお知らせ

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生・修了生で、入会費（5000円）または終身会費（10,000円）が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さいますようお願い申し上げます。

1系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 731348
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 773671
加入者名 豊友会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局（TEL: 0532-44-6841）へご一報くださるようお願い申し上げます。また、ホームページ上（<http://www.tut-ob.org/address.htm>）でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用ください。

学生活動への援助報告

今年も本学学生活動の活性化を支援する目的で、学生活動援助金を下記のとおり決定し、授与いたしましたのでご報告いたします。

なお、例年、クラブ奨励金、クラブ援助金、技科大祭援助金の3種類を個別募集してまいりましたが、より一層の学生活動の活性化をはかるため、本年度は援助金総額を増額した上で一括募集を行い、申請書を基に活動状況、支援の必要度を精査した上で下記6クラブへの支援を決定致しました。

会員の皆様にもご理解、ご協力を賜りながら、今後とも援助を行ってまいります。 (援助活動担当者一同)

ロボコン同好会、軟式野球部、武道部、軽音学部、吹奏楽部、ラグビー部

ロボコン同好会

このたびは同窓会よりクラブ援助金をいただき、大変ありがとうございました。ロボコン同好会は現在博士1名、修士9名、学部生24名の計34名で活動しています。平日、休日だけでなく、長期休暇中も休みなく活動しています。

部として参加している大会はNHK大学ロボコンですが、個人参加として、ロボワン、ロボット相撲、豊田クリエイティブなどの大会に参加しています。また部内大会として、春と秋(技科大祭)にミニロボコンを開催しています。NHK大学ロボコンでは過去に4回優勝しており、2004年大会では負けはしましたが、デザイン賞を受賞しました。2002年大会からABUアジア・太平洋ロボコンが開催され、大会の大勢も変わりつつある中で、競技フィールド、ルールの複雑化に伴い、今までになく高感度なセンサーや高精度のロボットが要求されています。

今回いただいた援助金は、ロボットの材料や製作設備へ当てさせていただく予定です。今大会では部員への負担も多く、制作資金がほぼ底をつく中で、私たちの活動にご理解いただき、援助をいただけたことに部員一同心より感謝しております。NHK大学ロボコン2005での活躍にご期待ください。



軟式野球部

物質工学課程 4年 藤高 幸司

この度は同窓会より援助金を頂き、誠に有難うございます。軟式野球部一同、お礼申し上げます。援助金は劣化の激しい、軟式バット、軟式球購入に使わせていただきたいと考えております。軟式野球部は年5大会ある豊橋リーグ=現在B級所属(軟式球使用)と毎年、夏に行われる東海地区国立大学体育大会(準硬式球使用)に出場しております。

現在、博士1名、修士6名、学部23名、計30名で活

動を行っております。今年は新入部員が16名も入部し、全部員、活発に練習に励んでおります。毎週、水曜日に個人練習、土曜日に全体練習、日曜日に大会、試合といったように練習量としては少ないようにみえますが、個々が自分自身で時間を見つけ練習に励んでいるのが現状であります。練習効率の向上、質のある練習メニューを常日頃から考えているのも事実です。

今年の6月27日、28日に行われた東海地区国立大学体育大会では日頃の練習成果を十分に発揮し、全部員一丸となって準優勝という結果を残す事ができました。決勝進出自体軟式野球部史上初でしたので心から全部員、感動しました。来年こそは優勝を狙う心構えを全部員すでもっております。

豊橋リーグでも国体予選豊橋大会で各上のA級チームに初めて勝つ快挙を挙げました。

最後まで諦めず、全力で気合を入れて勝ちにいく姿勢が勝利を呼んだと思います。

今後はA級リーグに所属し、豊橋NO1.になるのが目標であります。

武道部

エコロジー工学課程 3年 加藤 絵美

武道部です。この度は援助を頂きありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

武道部の活動は、主に剛柔流空手の稽古を行っています。まだ創立して3年ほどの部ですが、部員数は50名を超え、博士、修士、学部生ともに仲良く、大変活気のある部です。中森先生の指導のもと練習を重ね、一昨年度から大会に出場しています。形、組手ともに優勝者を出し、また多くの部員が入賞しております。しかし、活動をする上での諸経費が高額となり、個人の負担が大変大きく困ってしまいました。そこへ同窓会からのお話を聞き応募したところ、援助して



もらう運びとなりました。ただただ感謝するばかりです。援助金でマキワラスタンドを購入しました。形状は、100×80cm程の板に150cmくらいの柱をバネと鉄板で固定したものです。用途は、正しい姿勢と正しい攻撃部位を確かめ、身につけるためのものです。練習環境を充実する事ができ、今まで以上のスキルアップを期待しています。実際に使った部員たちにも好評で、とても喜んでます。今後、より良い大会結果を残していくためにも精一杯精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

軽音部

この度は我々軽音楽部に援助いただきありがとうございました。軽音楽部は本年度、例年にないほど多数の部員を抱え、今もなお、年度始めに限らず続々と入部希望者が現れています。

本年度は、例年行われています東海地区国立大学文化祭が本学主催となります。そこで、本学で音響機材に触れる機会が最も多いことから、軽音楽部がその指揮を執って準備を進めています。東海地区の国立大学の文科系サークルが一堂に会することもあり、大変な重責ではありますが、学ぶことも非常に多いと捉え、若手の勉強の場として低学年を中心に尽力していこうと存じています。



定期イベントとしましては、技科大祭など年間8回の定期演奏会を行っています。この定期演奏会も規模はさまざまではありますが、1回の演奏会には非常に多数の機材が必要となります。部員一同、機材の取り扱いには細心の注意を払っておりますが、扱う機材が多いだけに順次寿命が来てしまい、必要な機材が欠落する中、会場システムの試行錯誤を繰り返すことにより、どうか行事をこなしているのが現状です。しかし、もはや限界が見え始めており、徐々に低下する演奏会のクオリティに部員の士気が下がりがつありました。

こんな状況で、今回援助金をいただくことが出来ましたので、最も有用な音響機材を購入するべく、援助金の使途についてミーティングを重ね、新しい機材、次回の演奏会に心を弾ませております。重ねてありがとうございました。

吹奏楽団

情報工学課程 4年 打尾 健太

このたびは同窓会より学生生活活動援助金をいただきました

て、団員一同心から感謝いたしております。

数年前までは数名で活動しておりました私たちですが、現在は修士6名、学部生41名、合計47名（男性32名、女性15名）と立派に演奏会を行える団体になりました。これもみなさまのご支援があつてのことと思います。

私たちは毎年行っている定期演奏会を大きな目標として、日々練習を行っております。今年は演奏会が第20回となる記念の年であり、例年にも増して力のこもった練習をしてまいりました。

定期演奏会以外にも、2ヶ月に一度は近隣の小学校や介護施設などで演奏させていただいております。子供やお年寄りの方のみなさんの喜ぶ顔を見られたときが、今までやってきた良かったと思える最高の瞬間です。その他にも学内の卒入学式、技科大祭、他団体との合同演奏など、常に明確な目標として演奏会があり、それに向けて活動しております。

しかし、私たちが使用する楽器はもともと高価なものばかりで、到底学生が購入できるものではありません。楽器を所有している団員もおりますが、数年間貯金をしてやっとの思いで購入したものばかりです。大半は学校の備品をお借りしています。ただし、備品はすでに故障しやすくなっているものが多く、修理のためにもかなりの金額が必要となります。これらは個人で支払える金額ではないため、普通は団費でまかないます。今回いただいた援助金はこの修理費に使わせていただこうと考えております。どんなに丁寧に扱っていても金属部分や革製部分の劣化は免れないため、必ず必要となる修理です。これを行うことによって団員の演奏技術向上を促し、結果的に全体の演奏がよりよいものへ改善されていきます。

今後より一層、活発にサークル活動を行って参りますので、皆様ご協力の程よろしくお願いたします。

ラグビー部

エコロジー工学課程 4年 鈴木 宏道

ラグビー部です。この度は援助をして頂き、誠にありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

現在の部員は修士2名、学部23名（マネージャー2名含む）で活動しています。活動時間は通常、火、水、金曜日は16時半から、土曜日は9時半から行っています。ラグビー部の目標は、東海学生ラグビーフットボール連盟主催の大学リーグのリーグ昇格です。リーグ戦は9月から11月に行われ、リーグは4部に分かれており、我々ラグビー部は一番下のリーグにいます。昨年までの成績はあまり良いほうではありません。しかし今年は違います。春には我々のリーグより上の大学と練習試合を行い、同等またはそれ以上の試合を行ってきました。今年こそはリーグ昇格が期待できます。

8月末には長野県の菅平に合宿に行ってきました。同窓会より頂いた援助金は、この合宿へ行く移動費として使用させていただきました。菅平では、全国から色々な大学が合宿に来ているため、多くのチームと試合を行いにきました。この合宿の目的は、リーグ戦直前であるため試合を多く行い、チームの調整を行うことでした。実際に合宿を終えて、チームの良いところ悪いところがはっきりと出てきました。リーグ戦へ今後の課題が出たので、これを改善し、リーグ戦では良い結果を残したいと思っております。今後の活躍にご期待ください。

同窓会平成 15 年度収支報告および平成 16 年度予算案

項 目	平成 15 年度予算案	平成 15 年度決算	平成 16 年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	9,968,955	9,978,955	10,821,401
入会金	2,150,000	2,110,000	2,150,000
会費	4,300,000	4,220,000	4,300,000
預金利息	1,000	782	800
同窓会名簿購入金	—	8,000	—
小計	6,451,000	6,338,782	6,450,800
収入合計	16,419,955	16,317,737	17,272,201
■支出の部			
会報経費	930,000	706,420	710,000
(印刷代)	920,000	700,420	700,000
(原稿執筆御礼)	10,000	6,000	10,000
役員会経費	30,000	35,780	30,000
庶務経費	100,000	15,166	100,000
学生活動援助金	500,840	450,840	550,420
(技科大祭後援金)	100,420	100,420	—
(卒業記念パーティ援助金)	250,420	250,420	—
(クラブ活動資金援助)	150,000	100,000	—
Web 関連経費	47,880	53,130	53,130
各系への会費配分金	4,300,000	4,220,000	4,300,000
会費徴収等手数料	—	15,000	—
小計	5,908,720	5,496,336	5,743,550
次年度繰越金	10,511,235	10,821,401	11,528,651
支出合計	16,419,955	16,317,737	17,272,201

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
- (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
- (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
- (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者

2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名 (庶務担当)
- (4) 理事 原則として各系2名
- (5) 顧問 若干名

第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
- (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
- (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
- (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員の出選は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。

4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。

3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。

4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。

2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

同窓会総会開催のご案内

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、同窓会では、来る平成17年4月23日(土)に、下記の要領で第8回豊橋技術科学大学同窓会定期総会を行うこととなりました。皆様のご来場をお待ちしております。

日 時 平成17年4月23日(土) 13時より

場 所 豊橋技術科学大学 C棟2階会議室 C-204

議 題

1. 役員を選出
2. 会則の一部改正「会費領収書の保管期限について」
3. 平成12～16年度事業報告および収支決算報告
4. 平成17年～20年度事業計画および収支予算案

なお、当日欠席される方は同封の委任状に記名押印の上、同窓会までご返信をお願いします。
委任状は住所変更通知書としてもご活用ください。



同窓会事務局より会員の皆様へのお知らせ

『全学単位での同窓会名簿の発行の取り止めについて』

最近、新聞等で「架空請求」の被害が度々報道され、さらに以前から本会の会員に対しても「各種の勧誘および問い合わせ」や「本会に関係のない業者による名簿情報の提供依頼」等の迷惑行為が発生しております。本会は、名簿データ等を業者に委託せず厳重に管理しており、部外者への名簿の販売等は一切行っておりませんので、これらの勧誘等に一切の関係が無いことをお断りしておきます。

こうした状況も考慮し、発行部数も少ないことから、平成15年8月の臨時役員会、及び平成16年4月の役員会において、これまで4年毎に発行してきた全学同窓会名簿について今後は発行を行わないとの提案がなされ、全系役員との承諾を得ました。(但し、全学単位での発行の取り止めの決定は、各系・各研究室単位の同窓生名簿の発行とは無関係です。)

名簿発行を取り止める理由：

前回の2000年度版の発行部数が約200部と非常に少なく、さらに冊子として発行することで悪徳業者への情報漏洩の可能性が否定できません。

今後の名簿情報の開示方法：

同窓会ホームページ等を通して会員からの名簿情報開示の依頼を受け付けた後、出身の系役員による本人確認を経た上で、希望の研究室単位、もしくは同期生単位の紙面データを郵送(送料は本人負担)します。

名簿情報の掌握率向上への期待：

名簿の発行を取り止めることで、安全性を向上させ、積極的な名簿情報のご提供を期待しています。

以上のように、全学同窓会名簿は発行を取り止めますが、毎年発行している本会報及び各系同窓会の会報等については引き続き発行してまいります。会報の発行活動は、本会と会員の皆様を結びつける大きな力になると考えておりますので、住所等を変更された際には、ご一報を本会までよろしくお願い致します。(詳細な変更方法は、会報中に記載しています。)

豊橋技術科学大学同窓会